

## 第5章 地域別構想

### 5-1. 地域区分

本都市計画マスタープランの地域区分は、過去の市街地や集落などを形成してきた経緯があること、これまでのまちづくりの単位であること、人口などの定量的な分析が容易であること等を踏まえ、旧町域での地域別区分を設定します。

なお、本都市計画マスタープランにおいては、ひとつの市としての将来の都市計画・まちづくりの方向性を示すことを目的とするため、都市計画区域の内外に関わらず各地域の位置づけを明らかにするとともに、望ましい将来像及び地域づくりの方針を地域別構想で定めます。

図 地域区分

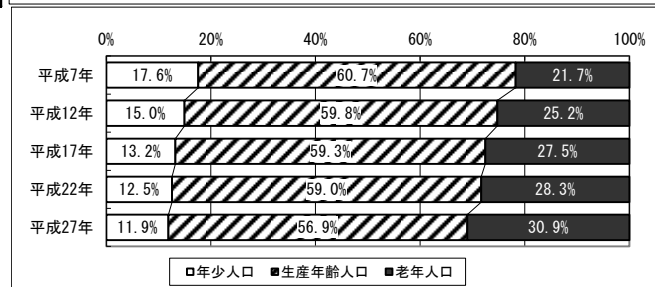
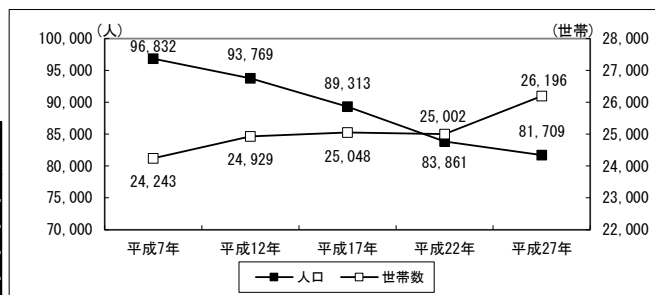


図表 登米市全体の人口・世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0～14歳	構成比	15～64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	17,030	17.6%	58,762	60.7%	21,040	21.7%	96,832	24,243
平成12年	14,023	15.0%	56,098	59.8%	23,648	25.2%	93,769	24,929
平成17年	11,797	13.2%	52,937	59.3%	24,579	27.5%	89,313	25,048
平成22年	10,530	12.6%	49,569	59.1%	23,762	28.3%	83,969	25,002
平成27年	9,726	11.9%	46,668	57.1%	25,315	31.0%	81,959	26,196

※「不詳」を除く

資料：国勢調査

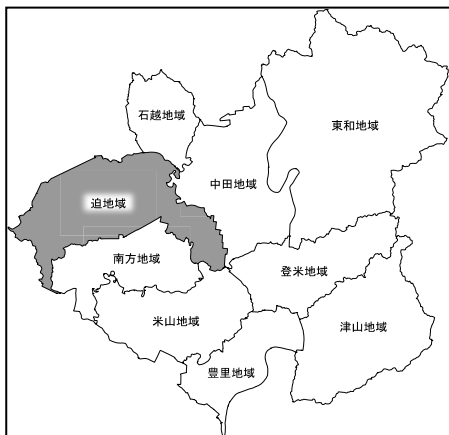


## 5-2. 地域別の将来像

### 5-2-1. 迫地域

#### (1) 地域の現況と課題

##### ■地域の位置

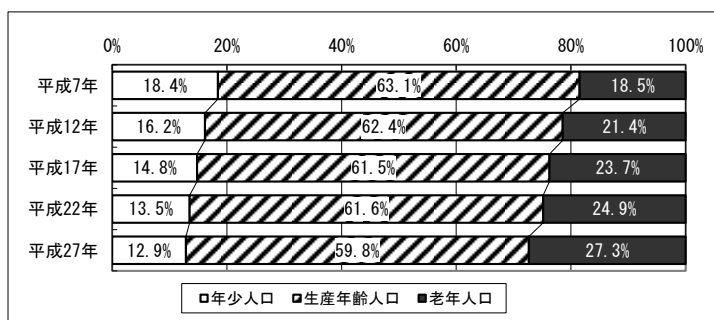
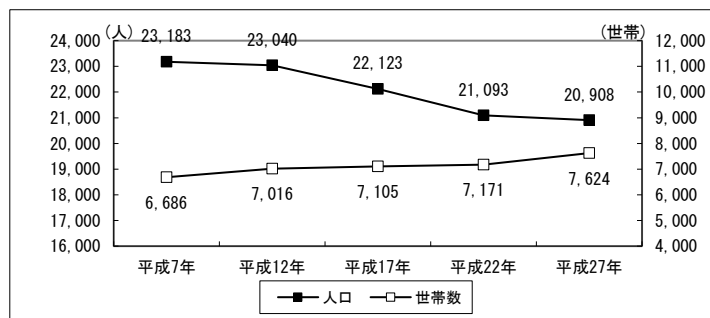


##### ■地域の人口と世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0~14歳	構成比	15~64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	4,271	18.4%	14,633	63.1%	4,279	18.5%	23,183	6,686
平成12年	3,731	16.2%	14,371	62.4%	4,938	21.4%	23,040	7,016
平成17年	3,276	14.8%	13,600	61.5%	5,247	23.7%	22,123	7,105
平成22年	2,850	13.5%	13,000	61.6%	5,243	24.9%	21,093	7,171
平成27年	2,688	12.9%	12,504	59.8%	5,716	27.3%	20,908	7,624

※「不詳」を除く

資料：国勢調査



##### ■人口・世帯等の動向

○人口、世帯は市内で最も多く、市の人口の約4分の1が集中しています。また、世帯数は増加傾向にありますが人口は平成12年（2000年）以降、減少傾向にあります。

○高齢化率は最も低い地域であり、27.3%となっています。

##### ■都市計画の指定状況

○本地域面積の約18%が登米都市計画区域に指定されており、そのうち約33%が用途地域に指定されています。

##### ■現況・課題

###### ①土地利用

○佐沼地区には、本市の中心市街地が形成されています。市の中心市街地は、商業、集客機能の停滞へ対処し、商業地の賑わいを再生する必要があります。また、空き家、空き店舗への対策を講じる必要があります。

○土地区画整理事業は梅ノ木地区、萩洗地区など6地区で実施され、都市基盤が整った良好な市街地が形成されています。土地区画整理事業が行われた住宅地は、都市基盤の整った良質な居住環境を保全していく必要があります。

○本地域の世帯は増加しています。新たな住宅地は、住宅の需要やニーズに対応し、良質な住宅地を計画的に供給していく必要があります。一方で、市街地外に位置する優良な農地等は、保全していく必要があります。

○本地域には長沼及び長沼第二工業団地をはじめとする本市を代表する工業団地が集積しています。

## ②都市施設

- 本地域にはみやぎ県北高速幹線道路及び佐沼 I.C の整備に伴い広域的な交通アクセス条件を活かし、土地利用の有効活用と計画的な誘導をしていく必要があります。
- 幹線道路は、国道 346 号、398 号や県道などが通っており、主要な道路は中心市街地から放射状に配置されていますが、幹線道路は、中心市街地内で発生する交通渋滞を解消する必要があります。
- 地域内の道路は、交通量が多い箇所や歩道等が設置されていない箇所があり、利用者に配慮した安全対策が求められています。
- 地域の西側には J R 東北本線が通っており、新田駅、梅ヶ沢駅があります。公共交通は、鉄道の利便性の向上を強化する必要があります。
- 大規模な公園・緑地は、長沼フートピア公園、鹿ヶ城公園などがあり、市民の憩いの場として利用されています。
- 佐沼地区には、登米市役所迫庁舎をはじめ、病院、公民館、図書館、博物館などの主要な公共公益施設が集積しています。

## ③都市環境

- 地域の西側には、白鳥、ガン等が飛来するラムサール条約指定登録湿地の伊豆沼・内沼があり、多くの生物、植物が生息・生育しています。伊豆沼・内沼、長沼は、水辺環境の保全と有効な活用を図る必要があります。

## (2) 地域づくりのテーマと目標

### ●地域のキーワード

- ・本市の中心地 ・歩いて買い物ができる商業地 ・公共公益施設が集積 ・広域商業地
- ・佐沼城址と周辺の公園 ・区画整理された住宅地 ・市の玄関口である J R 新田駅、梅ヶ沢駅
- ・湖沼（伊豆沼・内沼・長沼）と市街地を流れる河川の水辺

### 【迫地域の地域づくりのテーマ】

#### 歴史と水辺に彩られた、本市の核となる賑わいのまちづくり

《歴史(佐沼城址)、水辺(伊豆沼・内沼・長沼等)、本市の核(市の中心市街地)、賑わい(佐沼地区のまちの賑わい再生)》

### 【地域づくりの目標】

#### 《目標①》本市の核となる中心地の再生と新たな拠点づくりを目指します。

- 佐沼地区のまちの賑わいの再生と活性化
- 佐沼地区の個性ある市街地の魅力の向上
- 公共公益施設の機能維持・更新と街なかへの機能集約
- 既存住環境の維持と市街地景観の向上

#### 《目標②》市の中心市街地にふさわしいバランスのとれた地域構造の持続を目指します。

- 市街地内の低・未利用地の計画的かつ効率的な土地利用の促進
- 内環状道路の内側及び沿道への住居系、商業系、産業系等土地利用の適切な誘導

○内環状道路沿道より外側への無秩序な市街地拡大の抑制、農地や自然を保全する土地利用の規制・誘導の強化

○みやぎ県北高速幹線道路の整備効果を活かした産業系土地利用の適切な誘導

**《目標③》生活・交流を支える安全、安心、利便性の高い交通機能の確保を目指します。**

○自動車交通を分散する内環状道路の整備促進と迫川に架かる新橋の整備促進

○J R新田駅及び梅ヶ沢駅の利便性を強化するための駐車場の確保と公共交通ネットワークとの連携

**《目標④》ゆとりと潤いある緑・水辺環境の保全と創造を目指します。**

○市街地内の低・未利用地を活用した公園・緑地の確保と維持管理

○大東地区の雨水排水施設の整備促進

○長沼川沿いの河川緑道や親水エリアの配置、市街地内における市民の憩いの場の創出

○伊豆沼・内沼、長沼の水辺空間の保全

○長沼の観光・レクリエーション機能の向上

**(3) 地域の整備・保全の方針**

**①土地利用**

- ◆佐沼地区周辺の市街地は、商業や新たな公益的施設などの集約・誘致により、賑わいの再生と活性化を支援します。
- ◆梅ノ木地区などの住宅地は、既存の住環境の維持を図ります。
- ◆萩洗地区においては、現状の土地利用動向を把握するとともに、適正な土地利用区分による住環境の維持、向上を図ります。
- ◆内環状道路沿道より内側の中心市街地内は、住居系、商業系、産業系等の土地利用の適切な誘導を図ります。
- ◆内環状道路沿道より外側の地域は、無秩序な市街地の拡大を抑制し、農地や自然環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化や、耕作放棄地の有効活用を図ります。
- ◆長沼及び長沼第二工業団地をはじめ、大洞地区の工業団地へ企業誘致を促進し、市民の雇用の場の確保を図ります。
- ◆市街地内に散在する低・未利用地は、道路・公園・下水道などの整備と一体となった計画的かつ効率的な土地利用を促進します。
- ◆みやぎ県北高速幹線道路の整備を促進し、佐沼 I.C 周辺は、産業系土地利用の誘導と企業誘致を図ります。

**②都市施設**

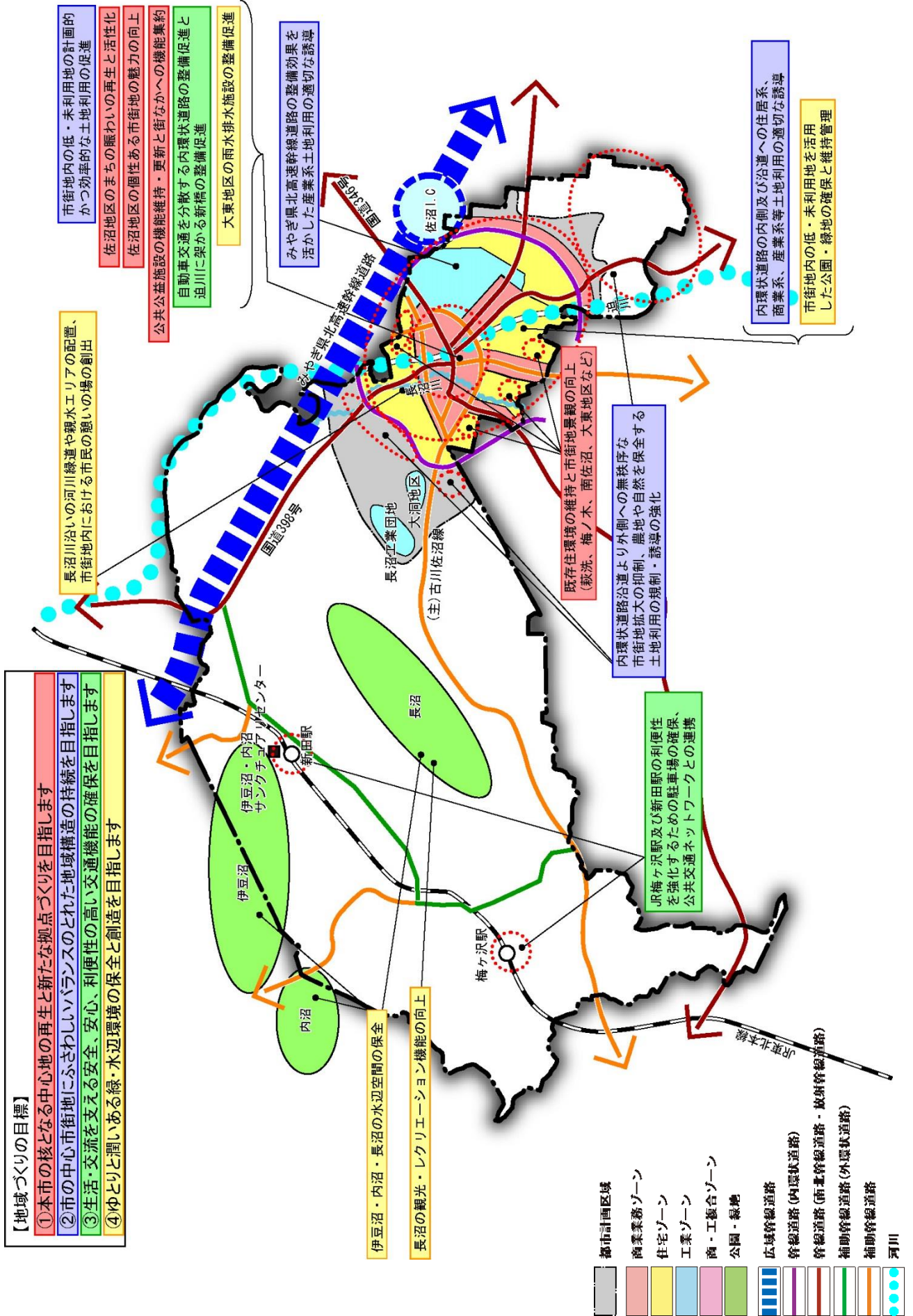
- ◆幹線道路は、中心市街地への交通の集中と渋滞緩和を図るため、自動車交通を分散する内環状道路の整備、迫川に架かる新橋の整備を進めます。
- ◆J R新田駅及び梅ヶ沢駅周辺には、通勤通学等の鉄道利用の促進と利便性向上を図るため、駐車場の確保を進めます。
- ◆市街地内においては、空き地・空き家等の低・未利用地を活用した公園・緑地の確保と維持管理を地域住民との連携のもとに進めます。
- ◆浸水被害がある大東地区においては、雨水排水施設の整備を計画的に進めます。

- ◆下水道の未整備地区では、公共下水道又は浄化槽の整備を進めます。
- ◆医療、福祉、図書館、生涯学習等の公共公益施設は、各施設の機能を維持するとともに、市民ニーズに応じた機能更新、佐沼地区周辺の市街地へのさらなる機能集約を図ります。

### ③都市環境

- ◆地域の生活の中心となる佐沼地区の商業地は、歩いて買い物ができる歩道の整備や景観形成、空き店舗対策などの商業空間づくり、魅力向上を地元商業者等と進めます。
- ◆萩洗地区、梅ノ木地区などは、それぞれの地区にふさわしい市街地景観の形成に努めます。
- ◆良好な田園景観の継承活動を地域住民と進めます。
- ◆長沼川沿いには河川緑道や親水エリアを配置し、市街地内における親和性の向上を図ります。
- ◆伊豆沼・内沼、長沼の水辺空間は、保全に努めます。
- ◆長沼においては、キャンプ場やボート場などの既存施設を積極的に活用し、観光・レクリエーション機能の向上を図ります。

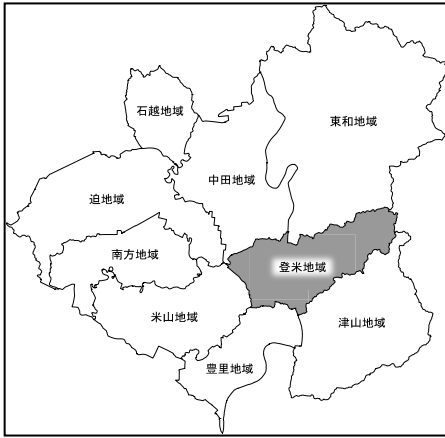
#### (4) 広域域の地域づくり方針図



とよま  
5-2-2. 登米地域

(1) 地域の現況と課題

■地域の位置

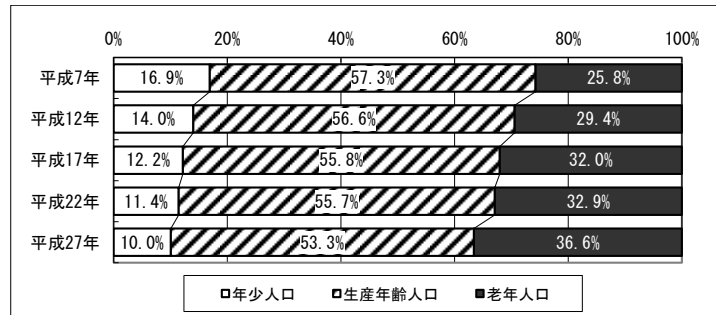
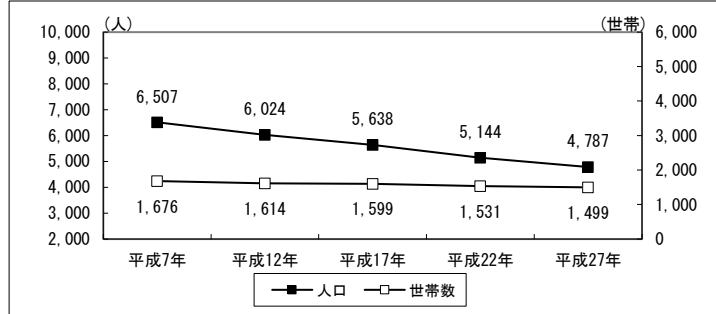


■地域の人口と世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0～14歳	構成比	15～64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	1,100	16.9%	3,731	57.3%	1,676	25.8%	6,507	1,676
平成12年	844	14.0%	3,408	56.6%	1,772	29.4%	6,024	1,614
平成17年	688	12.2%	3,144	55.8%	1,806	32.0%	5,638	1,599
平成22年	588	11.4%	2,863	55.7%	1,693	32.9%	5,144	1,531
平成27年	481	10.0%	2,553	53.3%	1,753	36.6%	4,787	1,499

※「不詳」を除く

資料：国勢調査



■人口・世帯等の動向

- 地域の人口、世帯数はともに減少傾向にあります。
- 高齢化率は、市内で最も高い36.6%であり、年少人口の低下の進行が著しい状況にあります。

■都市計画区域の指定状況

- 本地域の西側に北上川を挟んで、地域面積の約20%が登米都市計画区域に指定されています。

■現況・課題

①土地利用

- 寺池地区には、商店街や病院、公民館、歴史資料館などの公共公益施設の集積がみられるなど、地域の中心地が形成されていますが、既存商店街の活性化や空き家、空き店舗への対策を講じる必要があります。
- 本地域の隣接地に三陸縦貫自動車道登米 I.C が設置されています。登米 I.C 周辺は、I.C 設置の効果を活かした土地利用の計画的な誘導を図る必要があります。
- 地域の東側の森林地帯には、豊かな自然に囲まれた登米森林公園が広がり、キャンプ施設等が整備されています。周辺部に広がる田園地帯と森林地帯の農地、自然環境を維持保全していく必要があります。

②都市施設

- 北上川沿いに国道342号が通っており、登米大橋で北上川の右左岸を繋いでいます。国道342号登米大橋の渋滞緩和や災害時における左岸側の避難路の確保や孤立化を防止するなどの防災機能

の強化を図るため、新橋を架けるなどの強化が必要です。

○寺池地区の中心部には(主)築館登米線が通っており、地区の道路の骨格を形成しています。(主)築館登米線の歩行者の安全性を確保する必要があります。また、(主)築館登米線を中心に、観光等に対応する道路ネットワークを構築する必要があります。

○地域内の道路は、交通量が多い箇所や歩道等が設置されていない箇所があり、利用者に配慮した安全対策が求められています。

### ③都市環境

○寺池地区には、“みやぎの明治村”と呼ばれる明治の面影を伝える街並みや教育資料館（旧登米高等尋常小学校校舎）、登米懐古館、水沢県庁記念館、警察資料館（旧登米警察署庁舎）等の歴史・文化施設が集積しています。また、昔ながらの街並みも残され、観光資源としても活用されており、みやぎの明治村周辺は、景観法による景観づくりを誘導しています。歴史文化施設及び歴史の趣のある家屋や街並み景観などの地域固有の資源は、維持保全を図るとともに、地域の歴史文化資源を活かした集客・観光の充実を図る必要があります。

## (2) 地域づくりのテーマと目標

### ●地域のキーワード

- ・歴史文化資源の集積（教育資料館、登米懐古館、水沢県庁記念館、警察資料館等）
- ・みやぎの明治村
- ・歴史と伝統の街並み景観
- ・北上川
- ・田園と森林地帯
- ・登米森林公園

### 【登米地域の地域づくりのテーマ】

#### 歴史文化を継承し、観光交流と景観保全のまちづくり

《歴史文化の継承(寺池地区の歴史的な街並み)、観光交流(観光ネットワークの中心)、景観保全(みやぎの明治村にふさわしい景観誘導)》

### 【地域づくりの目標】

《目標①》本市の歴史文化資源を活かした観光の中心拠点づくりと地域生活の機能集約型の拠点づくりを目指します。

○市内に分散する観光ネットワークの中心となる拠点地域づくり、観光振興の体制の強化・充実

○寺池地区の歴史的な街並みの維持保全による継承と、景観の誘導による観光・集客機能の促進

○寺池地区の都市機能、公園・緑地などを適切に配置し、機能集約が図られた地域生活の拠点形成

○土地利用区分と新たな住宅地等の供給の適切な誘導と空き家、空き店舗の再利用

○農地や自然環境を保全する土地利用の規制

《目標②》三陸縦貫自動車道登米 I.C の設置の効果を活かした周辺の地域づくりを目指します。

○産業系・商業系、観光・交流施設等の複合土地利用の展開

○三陸縦貫自動車道登米 I.C 周辺の“みやぎの明治村”の玄関口としてふさわしい景観誘導

《目標③》地域生活と観光を支える安全・安心な道路網の形成を目指します。

○登米大橋周辺の整備



- (主)築館登米線の拡幅と、歴史的な街並みの魅力アップを図る景観に配慮した整備
- 三陸縦貫自動車道登米 I.C からのアクセス道路の整備

#### 《目標④》田園・森林環境の保全と資源の有効活用による地域の活性化を目指します。

- 三陸縦貫自動車道登米 I.C 周辺整備の適切な誘導と田園地帯を保全する土地利用の規制誘導
- 水田地帯や山林地帯を保全する土地利用の規制・誘導の強化
- 農業・林業の生産や農地・森林の有効利用等の推進
- 林業による地域活性への活用と新たな農業・林業への参画体制の強化
- 田園景観、山並みを望む眺望景観、北上川の水辺景観の保全

### (3) 地域の整備・保全の方針

#### ①土地利用

- ◆寺池地区は、住宅、商業等の土地利用区分と新たな住宅地等の供給を適切に誘導します。また、地区内の空き家、空き店舗の再利用についても、地域住民・商業者等と対策を講じます。
- ◆北上川左岸日根牛地区は、登米大橋周辺整備として、堤防及び国・県道の道路改良を一体的に進めます。
- ◆三陸縦貫自動車道登米 I.C 周辺は、I.C の設置に伴う効果を受け、産業系・商業系及び観光・交流施設等の複合的な土地利用の展開を検討します。また、I.C 周辺に広がる地域は、田園地帯を保全するよう適切な土地利用の規制誘導を図ります。
- ◆蛭沢地区の登米インター工業団地へ企業誘致を促進し、市民の雇用の場の確保を図ります。
- ◆田園地帯や森林地帯は、現状のまま保全していくことを基本とし、自然・緑の環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化に努めます。
- ◆農地や森林は、新たな農業・林業への参画体制の方策や都市交流・レクリエーション等と連携した農業・林業の生産などの有効利用の方策を検討します。

#### ②都市施設

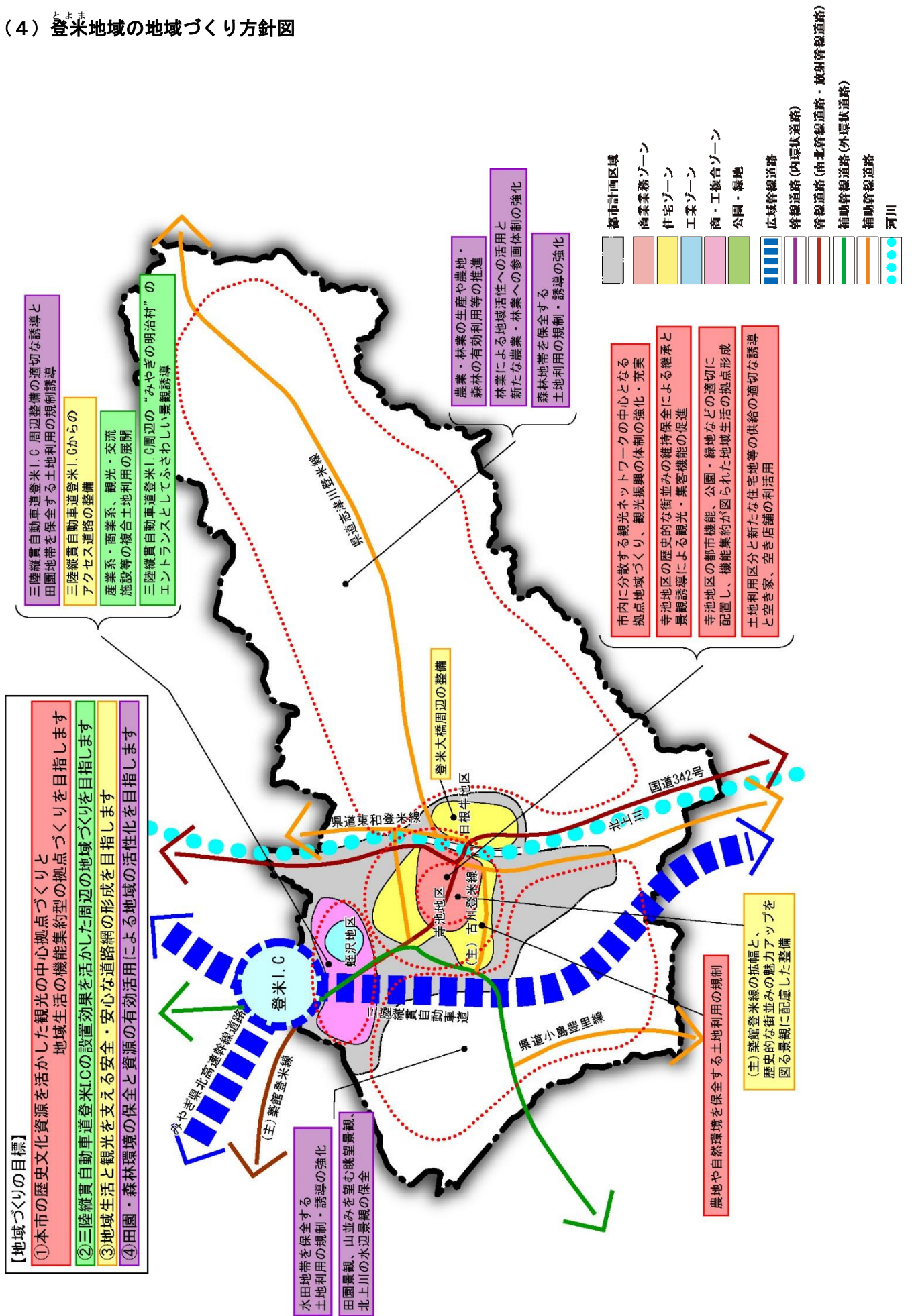
- ◆寺池地区は、登米地域の生活の中心地として位置づけ、地域生活に必要な都市機能、福祉施設、公園・緑地などを適切に配置し、地域生活のための機能が集積した拠点形成を誘導します。
- ◆北上川を渡る橋梁は、登米大橋（国道 342 号）の渋滞緩和と左岸側の防災機能の強化を図るため、新橋の整備を関係機関に要望していきます。
- ◆三陸縦貫自動車道登米 I.C には、I.C への自動車交通を円滑に導くアクセス道路の整備を進めます。
- ◆地域住民の生活利便性と安全性の向上を図るとともに、円滑な自動車交通の処理を図るため、中心地内の歩道整備を進めます。
- ◆下水道の未整備地区では、公共下水道又は浄化槽の整備を進めます。
- ◆寺池地区に集積している歴史文化施設は、施設の維持保全と観光・集客機能の充実を図ります。
- ◆寺池地区の歴史文化資源を活かし、本市の地域情報を発信するとともに、市内に分散する観光ネットワークの中心となる拠点地域づくりを展開します。また、地域住民、商業・観光関係者等との連携によって観光振興の体制の強化・充実を図ります。

#### ③都市環境

- ◆三陸縦貫自動車道登米 I.C 周辺は、本市及び“みやぎの明治村”の玄関口としてふさわしい景観誘導を図ります。

- ◆ “みやぎの明治村” など本地域の観光資源の情報発信に努めます。
- ◆ 田園景観、山並みを望む眺望景観、北上川の水辺景観の保全に努めます。
- ◆ (主) 築館登米線は、道路の拡幅と併せて、歴史的な街並みの魅力アップを図る景観に配慮した整備を関係機関に要望します。
- ◆ 登米<sup>とよま</sup>地域寺池地区の歴史的な街並みは、景観法による景観づくりを地域住民と進め、良好な街並み景観の維持とさらなる魅力の向上を図ります。また、電柱・電線の地中化による街なみ景観づくりの実施に向けた検討を行っていきます。

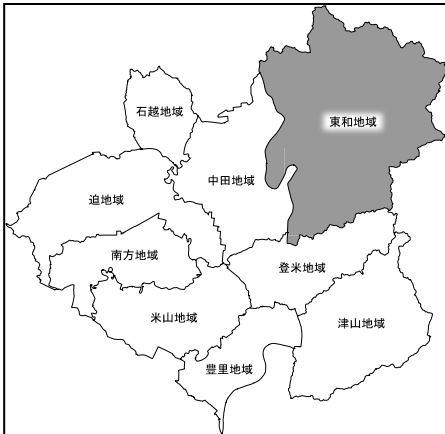
(4) 登米地域の地域づくり方針図



## 5-2-3. 東和地域

### (1) 地域の現況と課題

#### ■地域の位置

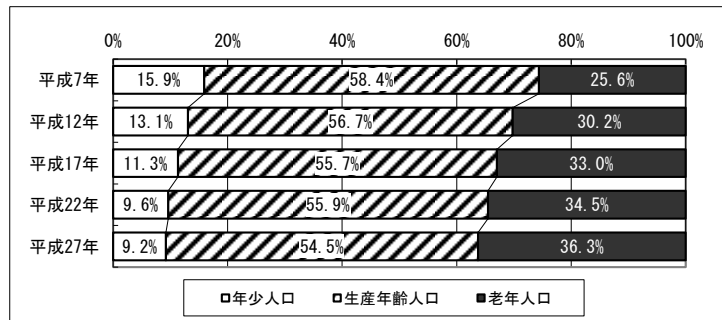
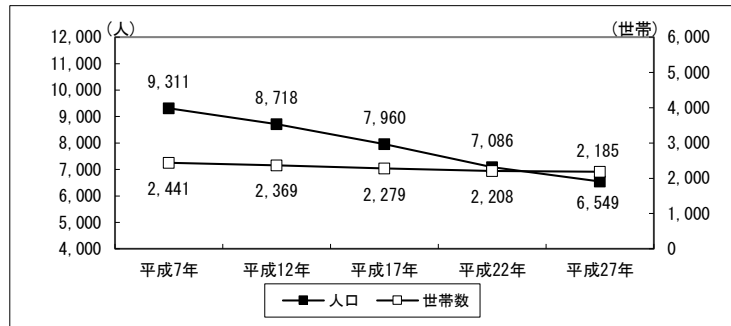


#### ■地域の人口と世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0～14歳	構成比	15～64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	1,484	15.9%	5,442	58.4%	2,385	25.6%	9,311	2,441
平成12年	1,142	13.1%	4,944	56.7%	2,632	30.2%	8,718	2,369
平成17年	902	11.3%	4,433	55.7%	2,625	33.0%	7,960	2,279
平成22年	682	9.6%	3,958	55.9%	2,446	34.5%	7,086	2,208
平成27年	605	9.2%	3,569	54.5%	2,375	36.3%	6,549	2,185

※「不詳」を除く

資料：国勢調査



#### ■人口・世帯等の動向

○地域の人口、世帯数ともに減少傾向にあります。

○高齢化率は市内で2番目に高い36.3%であり、高齢化が進み、年少人口も本地域のみ10%を割っています。

#### ■都市計画区域の指定状況

○本地域の西側、米谷地区において、地域面積の約3%が登米都市計画区域に指定されています。

#### ■現況・課題

##### ①土地利用

○本地域は、米谷地区、米川地区、錦織地区の3つの主要な集落が形成されています。主要な集落では、生活環境の改善・向上を図る必要があります。

○本地域の土地利用は大半が森林地帯で占められています。また、地域の西側、中田地域との境には北上川が流れています。森林地帯の緑や北上川の水辺に囲まれた豊かな自然環境は、保全に努め、未来へ継承していく必要があります。

○三陸縦貫自動車道の整備効果を活かした土地利用の計画的な誘導を図っていく必要があります。

##### ②都市施設

○地域の中央を国道346号、398号、456号が通っており、幹線道路網の骨格を形成しています。集落においては、歩行者の安全性を確保するため幹線道路への歩道設置を進める必要があります。

○広域幹線道路は、三陸縦貫自動車道が整備されています。

○米谷地区と米川地区のほぼ中間地点、国道346号沿いには道の駅「林林館」が立地し、同じ敷地

内に東和総合支所が併設しています。また、三陸縦貫自動車道三滝堂 I.C に道の駅「三滝堂」が整備されています。

○森林地帯には、キャンプ場などが整備された三滝堂ふれあい公園が立地しているなど、レクリエーションの場として活用されています。地域内にある固有の歴史文化資源は、その保全と有効活用を図っていく必要があります。

### ③都市環境

○米川地区には、かつての街道筋の宿場町として繁栄した街並みのなごりが見られます。また、「来訪神：仮面・仮装の神々」としてユネスコ無形文化遺産に登録された「米川の水かぶり」の行事があります。鱒淵地区ではゲンジボタルの生息が見られるなど、豊かな水と自然環境に恵まれた地域です。地域内にある固有の歴史文化資源や自然環境は、その保全と有効活用を図っていく必要があります。

## (2) 地域づくりのテーマと目標

### ●地域のキーワード

- ・森林地帯、自然環境
- ・ゲンジボタル
- ・歴史、文化資源
- ・北上川
- ・米川の水かぶり
- ・3つの主要な集落（米谷地区、米川地区、錦織地区）
- ・道の駅「林林館」と「三滝堂」

### 【東和地域の地域づくりのテーマ】

### 豊かな自然と歴史民俗文化による地域交流のまちづくり

《豊かな自然(森林環境・緑地・水辺空間)、歴史民俗文化(米川の水かぶり・宿場町)、地域交流(観光交流ネットワーク)》

### 【地域づくりの目標】

#### 《目標①》自然環境に囲まれた生活空間づくりを目指します。

- 主要な集落地の都市機能、公園・緑地等の適切な配置と機能集約を図った地域の生活の中心地づくり
- 自然環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化
- 居住地の生活の安全を確保するための自然災害の防止対策
- 国道 346 号、県道東和登米線の歩道の整備

#### 《目標②》豊かな自然環境の保全と資源の有効活用による地域の活性化を目指します。

- 道の駅「林林館」と「三滝堂」の地域情報を発信する機能の維持と拡充、森林環境との交流空間の形成
- 都市住民と自然環境が交流する緑地・水辺空間としての有効活用
- 木材のブランド化や観光用の製品開発などによる地域活性化の促進
- 平地部から山並みを望む眺望景観の確保

#### 《目標③》地域の歴史文化資源を活かした観光交流ネットワークの確立を目指します。

- 観光施設・資源を結ぶネットワークの確立と森林地帯の観光・交流・レクリエーションを活用した地域づくりの促進
- 歴史文化資源の保全と集客施設としての強化・充実
- 米川地区の「米川の水かぶり」などの歴史民俗文化の保全と伝承、宿場町の歴史を活かした景観づくり

## 《目標④》道の駅と I.C の整備効果を活かした地域づくりを目指します。

○三陸縦貫自動車道を活かした、地域の活性化に向けた新たな土地利用の誘導

### (3) 地域の整備・保全の方針

#### ①土地利用

- ◆米谷地区、米川地区、錦織地区は、本地域の主要な集落地と位置づけ、地域生活に必要な都市機能、公園・緑地などを地区間でのバランスを考慮して配置します。
- ◆森林地帯は、現状のまま保全していくことを基本とします。
- ◆農地や森林の無秩序な宅地化の拡大を抑制し、自然・緑の環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化に努めます。
- ◆三陸縦貫自動車道の I.C 周辺は、道路の整備効果を受け、新たな土地利用を検討します。

#### ②都市施設

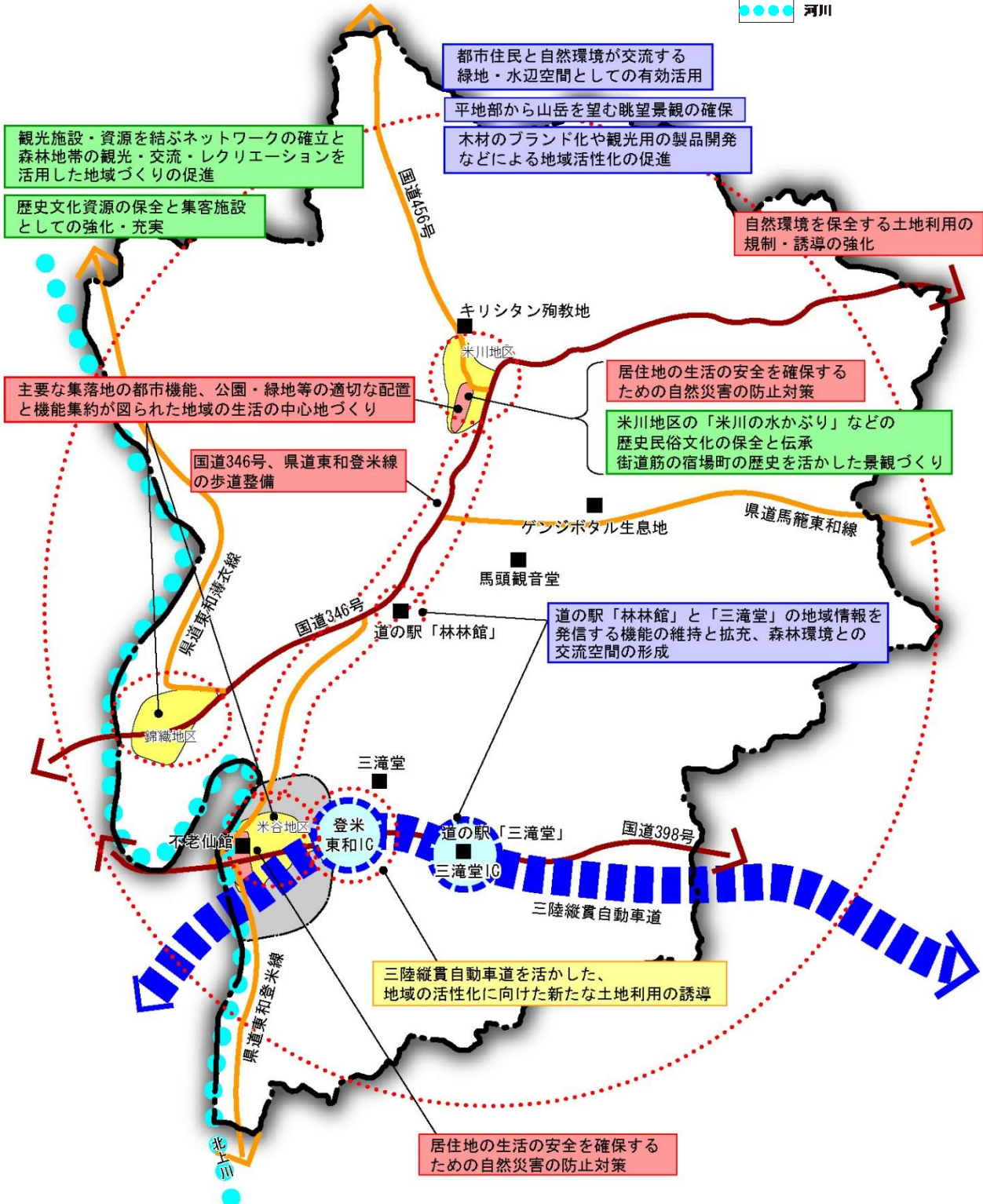
- ◆国道 346 号錦織バイパスの整備を促進します。
- ◆三陸縦貫自動車道の登米・東和 I.C 以東の延伸整備を促進します。
- ◆米谷地区～道の駅「林林館」・東和総合支所～米川地区等の主要な集落と施設を繋ぐ国道 346 号等への歩道整備を要望します。
- ◆下水道の未整備地区では、公共下水道又は浄化槽の整備を進めます。
- ◆道の駅「林林館」と「三滝堂」は、地域の自然・歴史文化や地域産品等の地域情報を発信する施設として、現在の機能の維持と拡充を図ります。また、周辺には森林浴や林業体験など、自然環境に配慮しつつ、森林環境との交流の空間形成を図ります。
- ◆三滝堂ふれあい公園、ゲンジボタルの生息する鱒淵地区などは、人と自然環境が交流する緑地・水辺の空間として、自然環境への負荷に配慮しつつ有効活用を図ります。
- ◆不老仙館、馬頭観音堂、隠れキリシタンの里などの地域内に分布する歴史文化資源は、その施設等の保全を図るとともに、観光施設、集客施設としての強化・充実を図ります。
- ◆地域の観光施設・資源は、各施設等を有機的に結ぶネットワークの確立を図ります。これにより、本市全体の観光ネットワークの一翼を担う森林地帯の観光・交流・レクリエーションの地域づくりを地域住民、商業・観光関係者等との連携によって進めます。

#### ③都市環境

- ◆集落地等の居住地は、生活の安全を確保するため、自然災害の防止対策に努めます。
- ◆森林地帯は、現況の自然環境を維持することにより、平地部から山並みを望む眺望景観の確保に努めます。
- ◆米川地区は、街道筋の宿場町の歴史を活かした景観づくりの誘導を図ります。

#### (4) 東和地域の地域づくり方針図

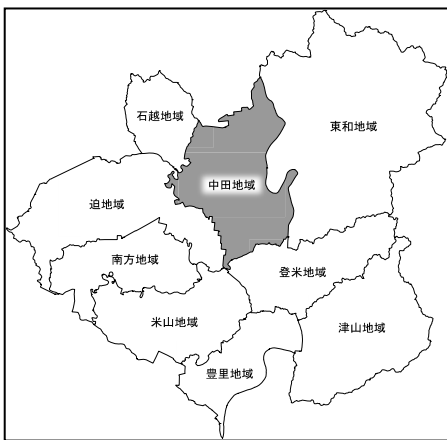
- 【地域づくりの目標】**
- ① 自然環境に囲まれた生活空間づくりを目指します
  - ② 豊かな自然環境の保全と資源の有効活用による地域の活性化を目指します
  - ③ 地域の歴史文化資源を活かした観光交流ネットワークの確立を目指します
  - ④ 道の駅とICの整備効果を活かした地域づくりを目指します



## 5-2-4. 中田地域

### (1) 地域の現況と課題

#### ■地域の位置

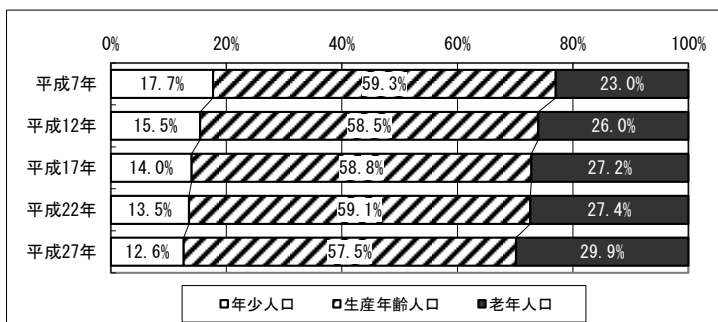
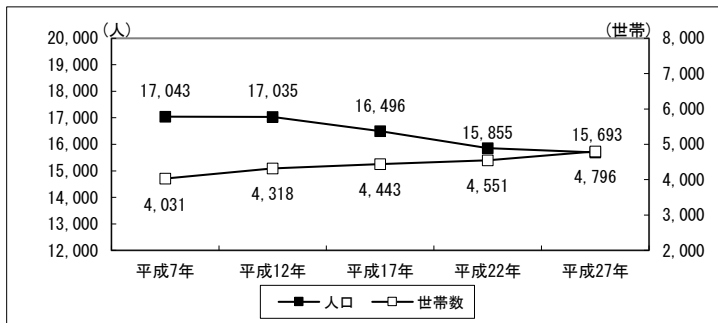


#### ■地域の人口と世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0~14歳	構成比	15~64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	3,019	17.7%	10,109	59.3%	3,915	23.0%	17,043	4,031
平成12年	2,634	15.5%	9,971	58.5%	4,430	26.0%	17,035	4,318
平成17年	2,307	14.0%	9,703	58.8%	4,486	27.2%	16,496	4,443
平成22年	2,148	13.5%	9,369	59.1%	4,338	27.4%	15,855	4,551
平成27年	1,983	12.6%	9,024	57.5%	4,686	29.9%	15,693	4,796

※「不詳」を除く

資料：国勢調査



#### ■人口・世帯等の動向

○人口は、追地域に次ぐ市内で2番目に人口の多い地域となっています。人口は、微減から減少傾向に推移していますが、世帯数は増加傾向にあります。

○高齢化率は29.9%であり、市全体での平均値をやや下回っています。

#### ■都市計画区域の指定状況

○本地域の中央において、地域面積の約56%が登米都市計画区域に指定されています。

#### ■現況・課題

##### ①土地利用

○市街地は追地域の中心市街地と連続しています。追地域と一体となった市街地の計画的な開発誘導と土地利用規制を図る必要があります。また、住宅の需要やニーズを踏まえて、新たな良質な住宅地を計画的に供給していく必要があります。

○ほぼ平坦な地形に広大な田園地帯が広がっています。地域の東側、東和地域との境には北上川が流れています。市街地外に位置する優良な農地等は、保全していく必要があります。

○土地区画整理事業は加賀野地区で実施され、都市基盤が整った良好な市街地が形成されています。加賀野地区の住宅地の良質な居住環境の保全や、街並みの景観形成を進めていく必要があります。

○地域の南側には、三陸縦貫自動車道が整備され、また、みやぎ県北高速幹線道路が開通しています。佐沼及び中田 I.C. の整備に伴って、土地利用の計画的な誘導を図るとともに、I.C. の設置効果を受け止めて、地域の活性化に活用していく必要があります。



## ②都市施設

- 幹線道路は、国道 342 号、346 号、398 号が通っており、幹線道路網の骨格を形成しています。迫地域の中心市街地に繋がる幹線道路は、交通渋滞を緩和していく必要があります。
- 地域内には、弥勒公園、かがの公園、長谷山公園などの公園が整備されています。
- 石森地区には、本地域の出身である漫画家石ノ森章太郎氏の作品等が展示された「石ノ森章太郎ふるさと記念館」が立地しています。地域内にある固有の歴史文化資源の保全と地域の活性化のために活用したまちづくりを促進する必要があります。

## ③都市環境

- 広大な田園地帯には農地と集落が共生する田園環境・景観があります。地域の東側、東和地域との境には北上川が流れています。良好な田園環境や水辺の景観を保全していく必要があります。

### (2) 地域づくりのテーマと目標

#### ●地域のキーワード

- ・本市の中心市街地と連続した市街地
- ・区画整理された住宅地
- ・三陸縦貫自動車道及びみやぎ県北高速幹線道路 I.C
- ・幹線道路の集中
- ・広大な田園地帯
- ・石ノ森章太郎ふるさと記念館

#### 【中田地域の地域づくりのテーマ】

#### 幹線道路や広域交通を活かした、新たな創造と田園保全のまちづくり

《幹線道路や広域交通(国道 346 号・国道 398 号・みやぎ県北高速幹線道路)、新たな創造(インター周辺の新たな土地利用の展開)、田園保全(無秩序な市街地拡大の抑制・田園地帯の景観保全)》

#### 【地域づくりの目標】

##### 《目標①》中心市街地に隣接したバランスのとれた地域構造の再構築を目指します。

- 内環状道路の内側及び沿道への住居系、商業系、産業系等土地利用の適切な誘導
- 内環状道路沿道の外側への無秩序な市街地拡大の抑制、田園地帯の環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化
- 既存住環境の維持と市街地景観の向上
- 計画的な宅地整備と土地利用の誘導
- 幹線道路の沿道条件を活かした土地利用の誘導

##### 《目標②》地域の生活や交流、各種の都市活動を支える交通機能の強化を目指します。

- みやぎ県北高速幹線道路の整備効果を活かした土地利用の適切な誘導
- 国道 346 号の渋滞を解消するための改善

##### 《目標③》I.C の設置の効果を活かした新たな土地利用の展開による地域づくりを目指します。

- I.C 周辺への複合市街地の整備と周辺環境保全のための土地利用の規制誘導
- 登米市の広域的な玄関口にふさわしい景観誘導

##### 《目標④》地域の資源を活かした観光・交流型の地域づくりを目指します。

- 本地域を象徴する田園景観の維持、都市交流・レクリエーション等と連携した農業生産や農地の有効活用
- 石ノ森章太郎氏をテーマとしたまちづくりの展開

### (3) 地域の整備・保全の方針

## ①土地利用

- ◆内環状道路の内側及び沿道は、迫地域の中心市街地と連続する地区であり、中心市街地と一体となった住居系、産業系等の適切な土地利用の誘導を図ります。
- ◆内環状道路沿道の外側の地域は、無秩序な市街地の拡大を抑制し、農地や自然環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化を図るとともに、耕作放棄地の有効活用を努めます。
- ◆上沼地区は、登米市役所中田庁舎などの主要な施設が立地するとともに、宅地化が進行しつつある状況にあることから、中田庁舎周辺を新たな住居系を中心とする市街地として位置づけ、計画的な宅地整備と土地利用の誘導を図ります。
- ◆加賀野地区の住宅地は、既存の住環境の維持を図ります。
- ◆三陸縦貫自動車道の周辺は、道路の整備効果を受け、新たな土地利用展開を検討します。
- ◆登米 I.C など I.C 周辺は、I.C の設置効果を受け、産業系・商業系及び交流施設等の複合的な土地利用の展開を検討します。また、I.C 周辺に広がる地域は、田園地帯を保全するよう適切な土地利用の規制誘導を図ります。
- ◆国道 346 号の沿道地区（迫地域隣接地～中田総合支所周辺地区）は、幹線道路の沿道条件を活かした土地利用の誘導を図ります。

## ②都市施設

- ◆幹線道路は、地域の主要な道路である国道 346 号の渋滞を解消するため、右折レーンの設置などの改善を要望します。
- ◆市街地内においては、空き地・空き家等の低・未利用地を活用した公園・緑地の確保と維持管理を地域住民との連携のもとに進めます。
- ◆下水道の未整備地区では、公共下水道又は浄化槽の整備を進めます。
- ◆石森地区などの地域の観光施設・資源は、各施設等を有機的に結ぶネットワークの確立を図ります。また、本地域の出身である漫画家石ノ森章太郎氏や歴史文化をテーマとしたまちづくりの展開を地域住民、商業・観光関係者等との連携によって拡充を図り、本市の観光ネットワークの一翼を担っていきます。

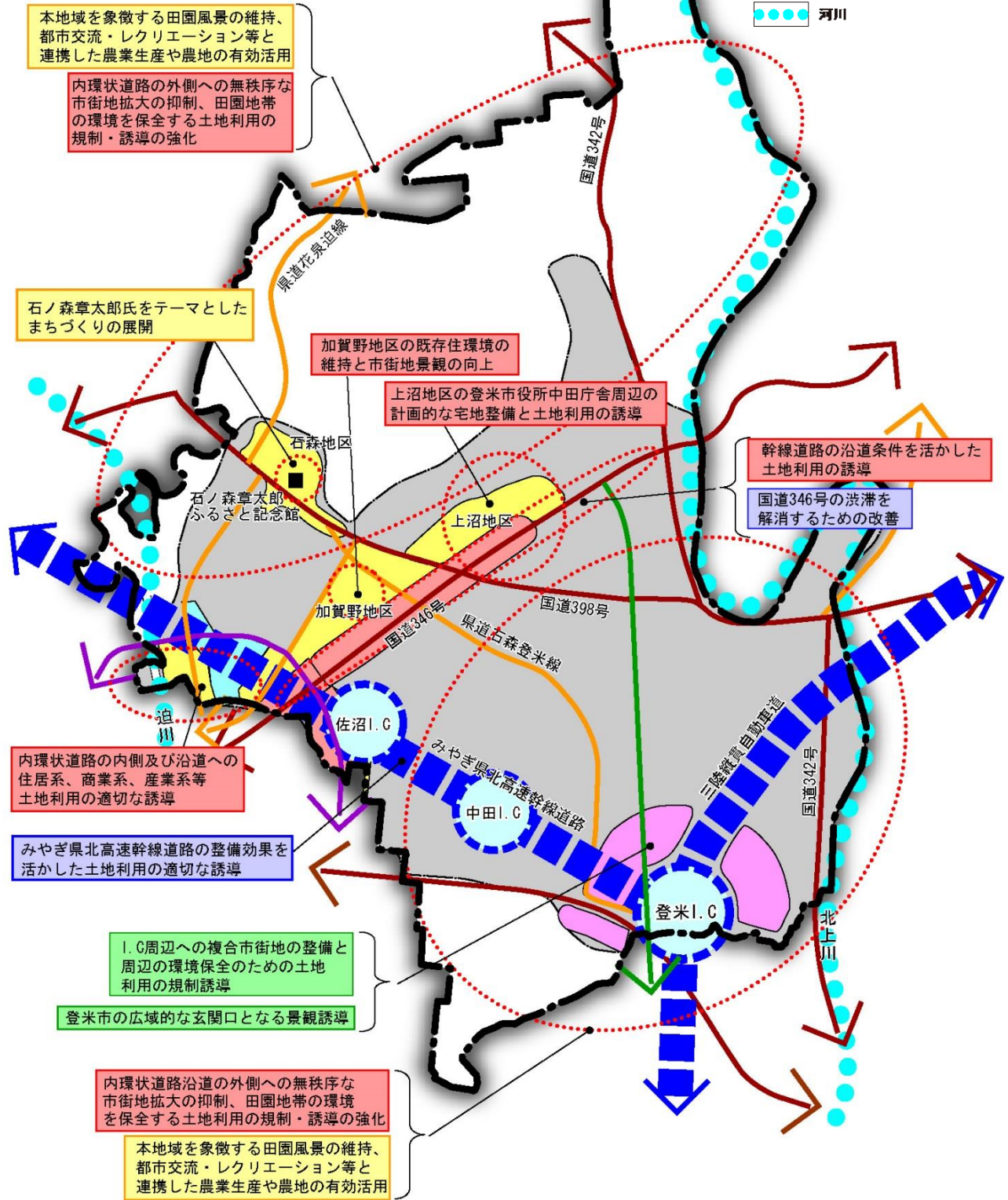
## ③都市環境

- ◆広大な田園地帯は、本地域を象徴する田園景観の維持に努めるとともに、都市交流・レクリエーション等と連携した農業生産や有効活用等の方向を検討します。
- ◆加賀野地区は、地区にふさわしい市街地景観の形成に努めます。
- ◆三陸縦貫自動車道登米 I.C 周辺は、本市の広域的な玄関口としてふさわしい景観誘導を図ります。

(4) 中田地域の地域づくり方針図

- 【地域づくりの目標】
- ①中心市街地に隣接したバランスのとれた地域構造の再構築を目指します
  - ②地域の生活や交流、各種の都市活動を支える交通機能の強化を目指します
  - ③ICの設置効果を活かした新たな土地利用の展開による地域づくりを目指します
  - ④地域の資源を活かした観光・交流型の地域づくりを目指します

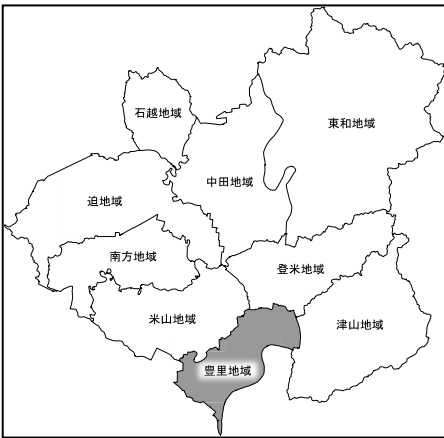
	都市計画区域
	商業業務ゾーン
	住宅ゾーン
	工業ゾーン
	商・工複合ゾーン
	公園・緑地
	広域幹線道路
	幹線道路(内環状道路)
	幹線道路(南北幹線道路・放射幹線道路)
	補助幹線道路(外環状道路)
	補助幹線道路
	河川



## 5-2-5. 豊里地域

### (1) 人口・世帯等の動向

#### ■地域の位置

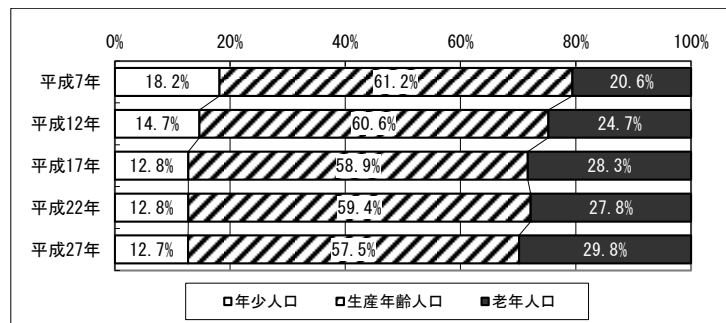
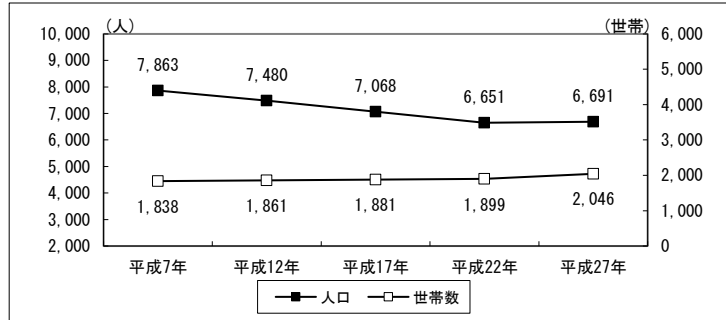


#### ■地域の人口と世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0~14歳	構成比	15~64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	1,429	18.2%	4,815	61.2%	1,619	20.6%	7,863	1,838
平成12年	1,099	14.7%	4,531	60.6%	1,850	24.7%	7,480	1,861
平成17年	903	12.8%	4,164	58.9%	2,001	28.3%	7,068	1,881
平成22年	850	12.8%	3,952	59.4%	1,849	27.8%	6,651	1,899
平成27年	850	12.7%	3,844	57.5%	1,997	29.8%	6,691	2,046

※「不詳」を除く

資料：国勢調査



#### ■人口・世帯等の動向

- 人口は減少傾向から微増、世帯数は微増傾向にあります。
- 高齢化率は29.8%であり、市全体での平均値をやや下回っています。

#### ■都市計画区域の指定状況

- 本地域の南側、陸前豊里駅を中心とした地区において、地域面積の約28%が登米都市計画区域に指定されています。

#### ■現況・課題

##### ①土地利用

- 地域の南側、陸前豊里駅を中心とした地区に地域生活の中心地が形成されています。陸前豊里駅周辺地区の既存商店街は、商店街の活性化や空き家、空き店舗への対策を講じる必要があります。
- 土地区画整理事業は上屋浦地区、新町地区等で実施され、都市基盤が整った良好な市街地が形成されています。土地区画整理事業が行われた住宅地の都市基盤の整った良質な居住環境の保全や、街並みの景観形成を進めていく必要があります。
- 地域の北側には平林工業団地が整備され、団地内にはクリーンセンターが立地しています。人口流出を防ぐため、地域における雇用の場を拡大していく必要があります。

##### ②都市施設

- 陸前豊里駅周辺には、病院や公民館などの公共公益施設が整備されています。
- 地域の南側にはJR気仙沼線が通っており、陸前豊里駅、御岳堂駅の2駅があります。鉄道の利

便性の向上と他の公共交通機関との連携を強化する必要があります。

○地域の西側には迫川、東側には北上川、旧北上川が流れており、北上川には分流施設が整備され、鶯波洗堰及び脇谷閘門周辺には水辺に親しむことができる北上川河川歴史公園が整備されています。

○県の有形文化財に指定されている香林寺山門などが立地しています。

○教育分野においては、「小中一貫教育」を実施しており、ソフト面における施策が展開されています。

### ③都市環境

○地域の西側は平坦な田園地帯が広がり、東側は丘陵地となっています。田園や里山の環境を維持保全していく必要があります。

## (2) 地域づくりのテーマと目標

### ●地域のキーワード

- ・機能集約型の居住地
- ・田園地帯と丘陵地
- ・整備された工業団地
- ・北上川、鶯波洗堰・脇谷閘門
- ・小中一貫教育
- ・J R 陸前豊里駅
- ・三陸縦貫自動車道桃生豊里 I.C

### 【豊里地域の地域づくりのテーマ】

生活利便機能集約型の居住環境を維持するまちづくり

《生活利便機能集約型(陸前豊里駅周辺の都市機能・住環境の維持)》

### 【地域づくりの目標】

《目標①》地域生活と本市の南の玄関口となる地域拠点の再生を目指します。

- J R 陸前豊里駅周辺の都市機能、公園・緑地等の適切な配置による地域生活の拠点形成
- 商店街の空き家、空き店舗の再利用等の対策
- 登米市の南の玄関口にふさわしい景観形成

《目標②》環境に恵まれた機能集約型の生活空間の維持を目指します。

- 低・未利用地の計画的かつ効率的な土地利用の促進
- 無秩序な宅地化の拡大の抑制と田園居住の環境維持
- 住環境の維持と市街地景観の向上

《目標③》地域の資源を活かした観光・交流型の地域づくりを目指します。

- 田園や里山の景観の維持、都市交流・レクリエーション等と連携した農業生産や農地の有効活用
- 河川、水運施設及び北上川河川歴史公園を活用した水辺に親しめる空間の形成

《目標④》小中一貫教育の支援と教育と連携した子育てに優しい地域づくりを目指します。

- 既存の教育・福祉施設や生涯学習施設、文化施設等の関連施設の活用
- ソフト・ハード面での子育て支援の充実
- 学校周辺等の歩道の整備・改善

### (3) 地域の整備・保全の方針

#### ①土地利用

- ◆ J R 陸前豊里駅周辺地区を本地域の主要な居住地区と位置づけ、地域生活に必要な都市機能、公園・緑地などを適切に配置し、地区の規模に見合う機能集約を図った地域生活の中心づくりの誘導を図ります。
- ◆ 陸前豊里駅周辺地区の既存商店街は、空き家、空き店舗の再利用等について、地域住民・商業者等と対策を講じます。
- ◆ 市街地内の低・未利用地の整備は、道路・公園・下水道などの整備と一体となった計画的かつ効率的な土地利用を展開します。
- ◆ 上屋浦地区、新町地区、下町地区の土地区画整理事業が行われた住宅地は、既存の住環境の維持を図ります。
- ◆ その他の住宅地は、無秩序な宅地化を抑制し、田園環境と共生するゆとりある田園居住の環境維持に努めます。
- ◆ 地域の雇用の場となる工業団地の維持に努めます。
- ◆ 地域の西側に広がる田園地帯の優良農地、自然環境の維持保全に努めます。また、体験農園、アンテナショップなど、地域資源を活用した農業振興に努めます。

#### ②都市施設

- ◆ J R 陸前豊里駅周辺は、鉄道利用の促進と利便性の向上を図るため、駐車場の確保を進めます。
- ◆ 北上川及び旧北上川沿いは、水辺に親しめる空間形成を進めます。
- ◆ 鴫波洗堰・脇谷閘門周辺に整備された北上川河川歴史公園は、市民や来訪者が水辺環境とふれあい、交流する水辺空間として有効活用を図ります。
- ◆ 「小中一貫教育」の充実を図るため、既存の教育・福祉施設や生涯学習施設、文化施設等の関連施設の活用に努めます。また、教育施設と連携して、幼児教育や子育て相談等の体制づくり、施設の併設等のソフト、ハード面で子育て支援の充実に努めます。
- ◆ 下水道の未整備地区では、公共下水道又は浄化槽の整備を進めます。

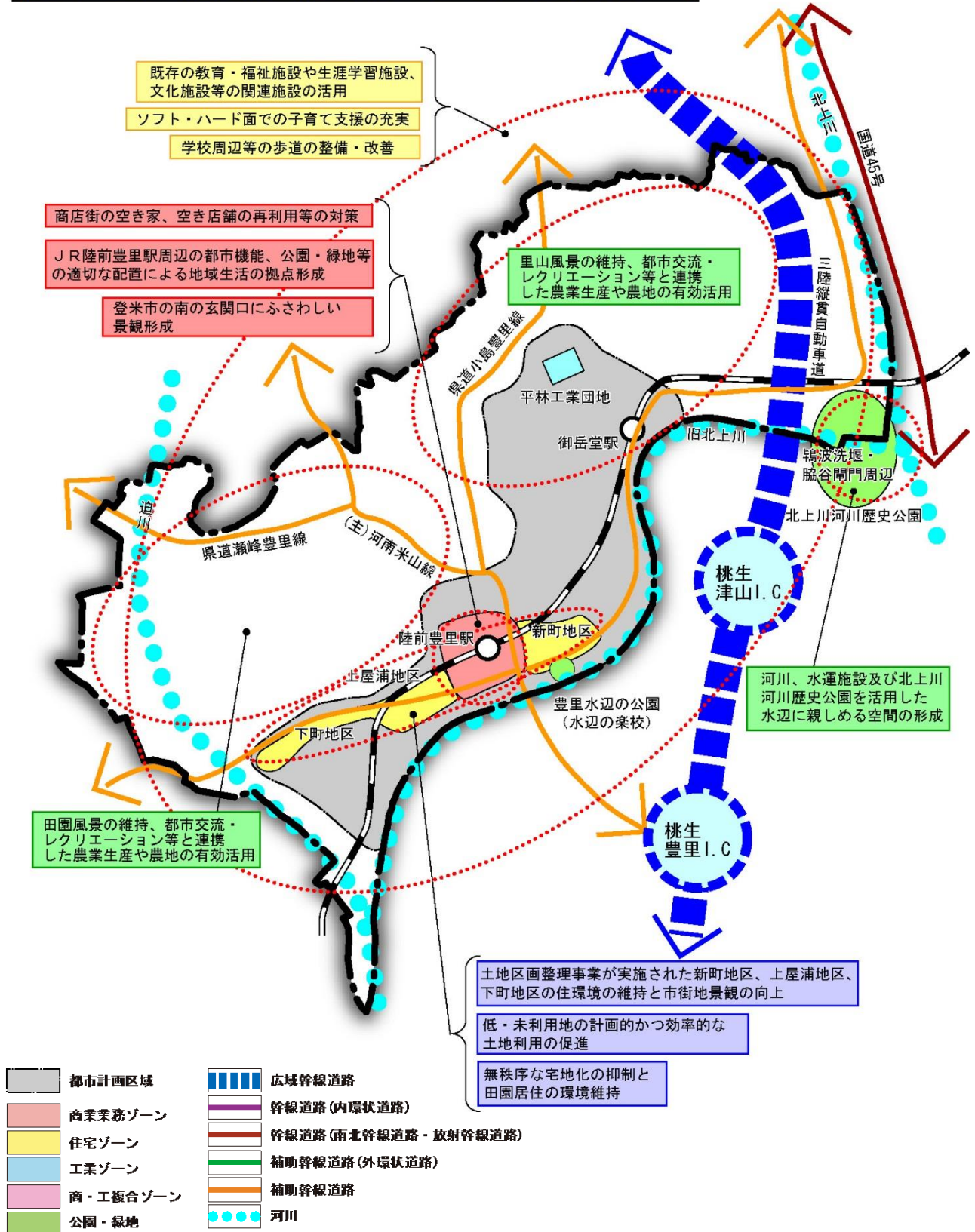
#### ③都市環境

- ◆ 中心地は、J R 陸前豊里駅と三陸縦貫自動車道桃生豊里 I.C からアクセスする本市の南の玄関口にふさわしい市街地の景観形成の誘導を図ります。
- ◆ 上屋浦地区、新町地区、下町地区は、それぞれの地区にふさわしい市街地景観の形成に努めます。
- ◆ 広大な田園地帯及び丘陵地は、地域を象徴する田園・里山の景観の維持に努めるとともに、都市交流・レクリエーション等と連携した農業生産や有効活用等の方向を検討します。

(4) 豊里地域の地域づくり方針図

【地域づくりの目標】

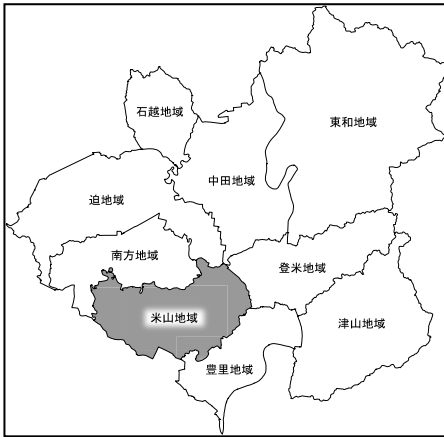
- ① 地域生活と本市の南の玄関口となる地域拠点の再生を目指します
- ② 環境に恵まれた機能集約型の生活空間の維持を目指します
- ③ 地域の資源を活かした観光・交流型の地域づくりを目指します
- ④ 小中一貫教育の支援、教育と連携した子育てに優しい地域づくりを目指します



## 5-2-6. 米山地域

### (1) 人口・世帯等の動向

#### ■ 地域の位置

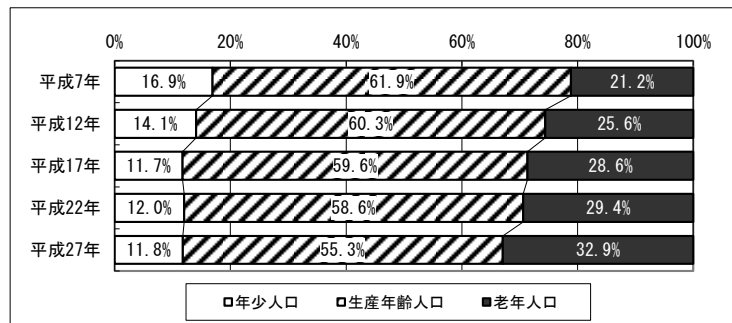
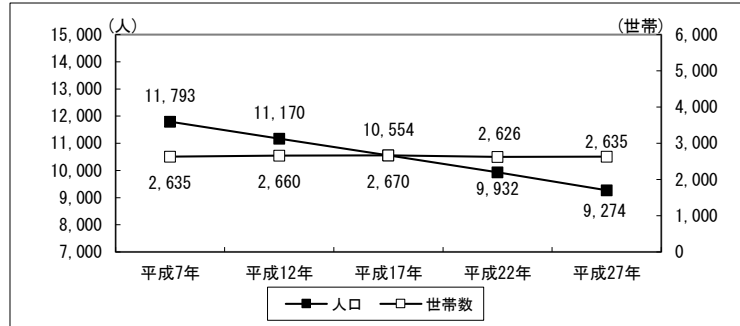


#### ■ 地域の人口と世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0～14歳	構成比	15～64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	1,996	16.9%	7,301	61.9%	2,496	21.2%	11,793	2,635
平成12年	1,572	14.1%	6,739	60.3%	2,859	25.6%	11,170	2,660
平成17年	1,240	11.7%	6,291	59.6%	3,023	28.6%	10,554	2,670
平成22年	1,192	12.0%	5,818	58.6%	2,922	29.4%	9,932	2,626
平成27年	1,093	11.8%	5,127	55.3%	3,054	32.9%	9,274	2,635

※「不詳」を除く

資料：国勢調査



#### ■ 人口・世帯等の動向

○人口は減少傾向、世帯数は増加傾向から平成22年（2010年）で減少に転じ、平成27年（2015年）で再度増加しています。

○高齢化率は32.9%であり、市全体での平均値をやや上回っています。

#### ■ 都市計画区域の指定状況

○本地域は、指定されていません。

#### ■ 現況・課題

##### ① 土地利用

○本地域は、米岡地区、桜岡地区、中津山地区の3つの主要な集落が形成されています。また、各地区には診療所、公民館などの公共公益施設が立地しています。主要な集落では、地域住民の日常生活の利便性向上に寄与する生活環境の改善・向上を図る必要があります。

○中津山地区周辺には、旧米山高等学校跡地を活用し、宅地造成事業として「ひだまりタウンよねやま」が整備されています。

○ほぼ平坦な地形に広大な田園地帯が広がっています。また、地域の中央には迫川が流れています。地域の大半の土地利用を占める広大な優良農地の田園環境を保全していく必要があります。

##### ② 都市施設

○幹線道路は、国道346号や県道が通っており、中央部の沿道には道の駅「米山」が整備され、地域の交流拠点となっています。交流促進や地域情報を発信する施設として、道の駅を有効に活用



していく必要があります。

○地域の南側には平筒沼があり、平筒沼ふれあい公園が整備されています。

○中津山地区周辺には、通信制高校である「飛鳥未来きずな高等学校」が立地しています。

### ③都市環境

○田園景観・田園環境や地場産品などの地域固有の資源を有効活用し、地域の活性化を図る必要があります。

## (2) 地域づくりのテーマと目標

### ●地域のキーワード

- ・広大な田園地帯、田園環境
- ・基幹産業の農業
- ・道の駅「米山」
- ・平筒沼ふれあい公園
- ・平筒沼、迫川の水辺

### 【米山地域の地域づくりのテーマ】

基幹産業としての農業を維持し、水辺と田園環境を活かした交流のまちづくり

《基幹産業として農業を維持(農業環境の維持)、水辺(平筒沼・迫川)、田園環境(田園及び里山の景観維持)、交流(道の駅の地域情報の発信拠点)》

### 【地域づくりの目標】

《目標①》田園環境と共生する田園生活環境の維持と定住促進を目指します。

○ゆとりある田園居住の環境維持

○田園居住の定住を促進する新たな就業形態の構築

《目標②》地域生活のための機能が維持された拠点づくりを目指します。

○米岡地区への生活に必要な都市機能の適切な配置

《目標③》田園環境、農畜産物を活かした地域の産業の拡大を目指します。

○田園及び里山の景観の維持、都市交流・レクリエーション等と連携した有効活用

○農業環境の維持、農畜産物を活かした産業の拡大等による地域活性化促進

《目標④》地域の資源を活かした観光・交流型の地域づくりを目指します。

○道の駅「米山」の地域情報の発信拠点としての機能維持と拡充

○平筒沼の水辺環境や地域の田園環境を活かした交流空間としての活用

## (3) 地域の整備・保全の方針

### ①土地利用

◆米岡地区は、本地域の生活の中心地として位置づけ、地域生活に必要な都市機能を適切に配置します。

◆米岡地区、桜岡地区、中津山地区の主要な集落は、田園環境と共生するゆとりある居住の環境維持に努めます。

◆田園地帯は、現状のまま保全していくことを基本とし、田園環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化に努めます。

◆中津山地区周辺の「ひだまりタウンよねやま」は、市外からの移住や市内の若者・子育て世代の定住を促進するため、周辺の良質な居住環境の維持を図ります。

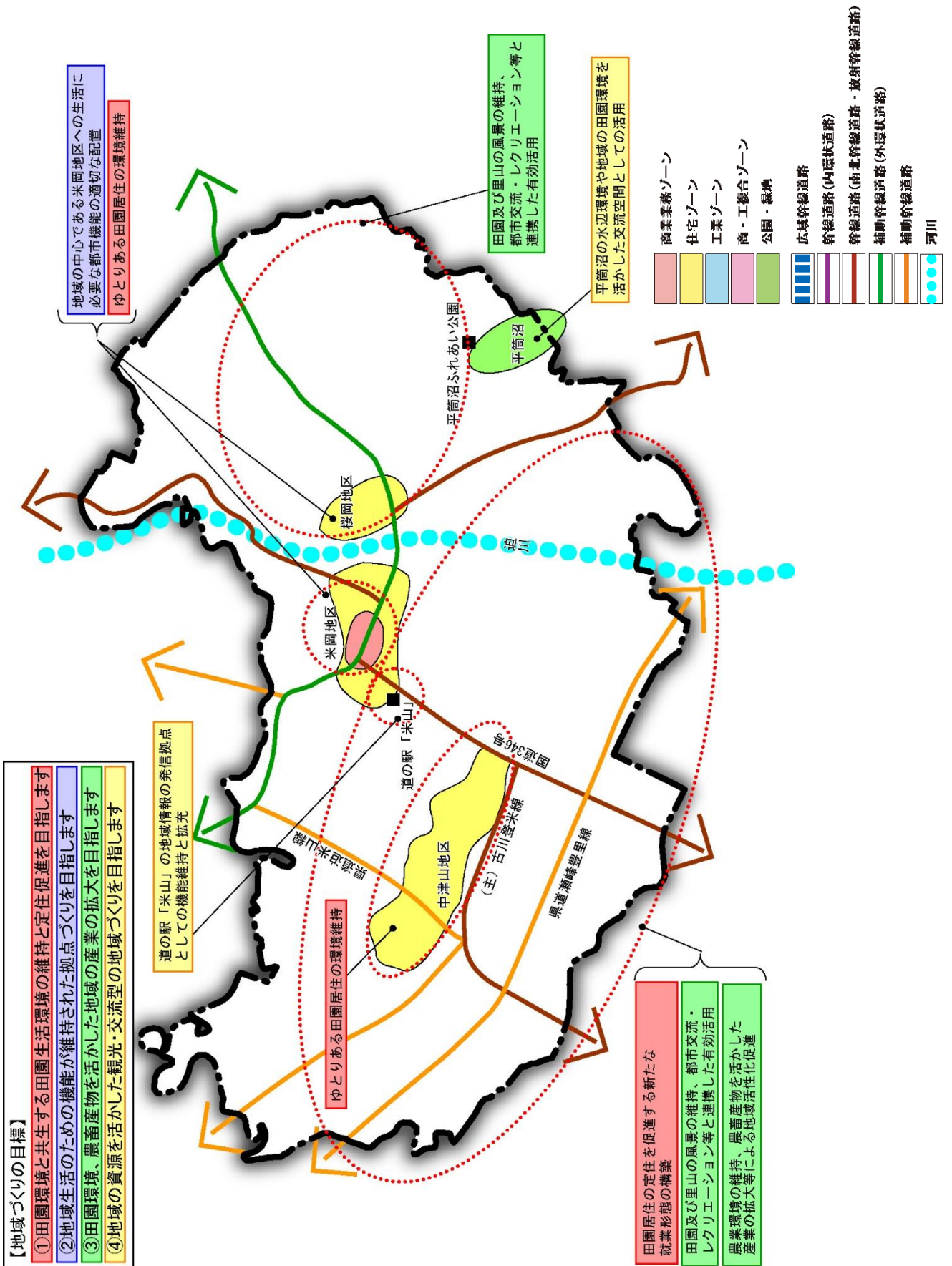
## ②都市施設

- ◆平筒沼ふれあい公園は、平筒沼の水辺と周辺の自然環境を活用した自然との交流空間として周辺環境に配慮しつつ、地域の観光スポットとして有効活用を図ります。
- ◆地域住民等の憩いの場や健康増進の活動の場となる公園の確保に努めます。
- ◆下水道の未整備地区では、浄化槽の整備を進めます。
- ◆道の駅「米山」は、地域の自然・田園環境、歴史文化や農畜産物等の地域情報を発信する拠点として、現在の機能の維持と拡充を図ります。

## ③都市環境

- ◆広大な田園地帯及び丘陵地は、本市を象徴する田園・里山の景観の維持に努めるとともに、都市交流・レクリエーション等と連携した農業生産や有効活用等について検討します。
- ◆本地域の基幹産業である農業は、米や野菜、畜産物の付加価値化、ブランド化による販路の拡大等によって産業の拡大を地域住民、商業・農業関係者等との連携を図りながら進めます。

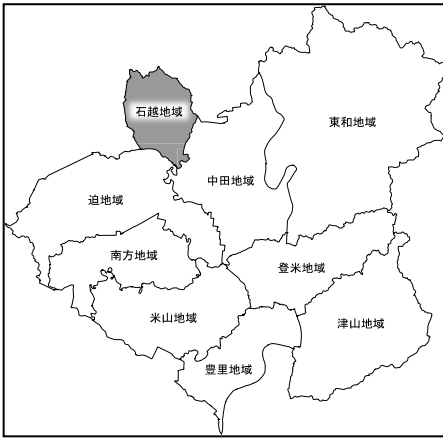
(4) 米山地域の地域づくり方針図



## 5-2-7. 石越地域

### (1) 人口・世帯等の動向

#### ■地域の位置

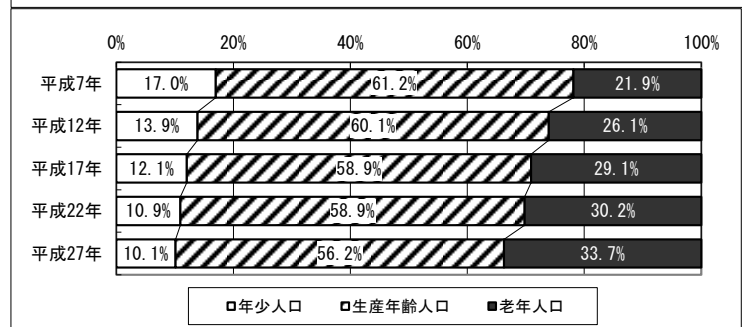
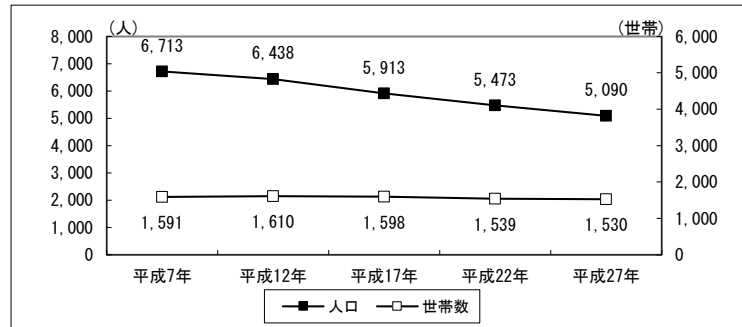


#### ■地域の人口と世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0～14歳	構成比	15～64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	1,140	17.0%	4,105	61.2%	1,468	21.9%	6,713	1,591
平成12年	893	13.9%	3,867	60.1%	1,678	26.1%	6,438	1,610
平成17年	713	12.1%	3,481	58.9%	1,719	29.1%	5,913	1,598
平成22年	598	10.9%	3,223	58.9%	1,652	30.2%	5,473	1,539
平成27年	514	10.1%	2,859	56.2%	1,717	33.7%	5,090	1,530

※「不詳」を除く

資料：国勢調査



#### ■人口・世帯等の動向

○人口は減少傾向、世帯数は平成17年（2005年）以降、微減傾向にあります。

○高齢化率は33.7%であり、市全体での平均値を上回っています。

#### ■都市計画区域の指定状況

○本地域のJR石越駅周辺において、地域面積の約5%が隣接する栗原市（旧若柳町）と一体となった栗原都市計画区域に指定されています。

#### ■現況・課題

##### ①土地利用

○空洞化しているJR石越駅周辺は、地区の再生を総合的に進める必要があります。交通の利便性を活かし、住宅地の整備・改善・向上を図る必要があります。また、駅周辺や住宅地の街並みの景観形成を進めていく必要があります。

##### ②都市施設

○地域の西側には南北方向にJR東北本線が通っており、石越駅があります。石越駅は、地域の生活と交流の拠点として、交通の利便性の向上を図る必要があります。

○幹線道路は(主)栗駒中田線が通っており、地域の骨格を形成するとともに、東北縦貫自動車道若柳金成I.C(栗原市)の広域的な交通機関に直結しています。本市の広域的な交通ネットワークの充実を図るため、各交通機関へのアクセスを強化する必要があります。

○南郷地区には、家族で楽しめるチャチャワールドいしこしや高森パークゴルフ場が立地していま

す。また、歴史的価値の高い山根前横穴古墳や鐘楼門で知られる昌学寺が立地しています。さらに、地域の東側には、海上連親水公園が整備されており、これら観光・レクリエーション施設は、既存施設の機能維持と施設内容の見直しを検討する必要があります。

### ③都市環境

○地形は、ほ場整備された田園地帯や小高い丘陵地・里山などがあり、南側には迫川が流れています。

## (2) 地域づくりのテーマと目標

### ●地域のキーワード

- ・ J R 石越駅 ・ 東北縦貫自動車道若柳・金成 I.C へ直結する幹線道路 ・ 田園地帯と丘陵地
- ・ チャチャワールドいしこし ・ 高森パークゴルフ場 ・ 海上連親水公園

### 【石越地域の地域づくりのテーマ】

#### 公共交通とレクリエーション施設を活かした地域交流のまちづくり

《公共交通(IR 東北本線石越駅)、レクリエーション施設(チャチャワールドいしこし・高森パークゴルフ場)、地域交流(観光レクリエーション資源を結ぶネットワーク)》

### 【地域づくりの目標】

#### 《目標①》生活・交流を支える安全、安心、利便性の高い交通機能の確保を目指します。

- J R 石越駅周辺の維持や整備による交通結節機能の強化
- 市内の各地域や東北新幹線くりこま高原駅など栗原市の主要な施設へアクセスする公共交通ネットワークの再構築
- 幹線道路への歩道の設置及び改善

#### 《目標②》石越駅周辺の再生と暮らしやすい生活空間づくりを目指します。

- J R 石越駅周辺への新たな住宅地の誘導
- 地域生活のための商業地の再生及び活性化の支援
- 本市の北の玄関口にふさわしい街並み景観づくりへの誘導

#### 《目標③》観光・交流施設のネットワーク化と地域の交流促進を目指します。

- 地域住民等の憩いの場となる、既存のレクリエーション施設の維持管理
- 観光・レクリエーション資源を結ぶネットワークの確立
- 観光ネットワークを担う施設づくり、維持管理体制の推進

#### 《目標④》田園環境の保全と活用による地域づくりを目指します。

- 田園及び里山の景観の維持、都市交流・レクリエーション等と連携した有効活用

## (3) 地域の整備・保全の方針

### ①土地利用

- ◆ J R 石越駅周辺地区の商業地は、地区内の空き家、空き店舗の再利用について、地域住民・事業者等と対策を講じます。
- ◆ 新たな住宅地は、仙台へ1時間圏域に位置する立地特性を活かし、駅周辺地区などに民間活力

等を利用しながら、住宅地を誘導します。

- ◆地域に広がる田園地帯は、現状のまま保全していくことを基本とし、田園環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化に努めます。

## ②都市施設

- ◆公共交通ネットワークは、J R石越駅を起点として市内の各地域や東北新幹線くりこま高原駅など栗原市の主要な施設へアクセスできるよう再構築を図ります。
- ◆J R石越駅は、通勤通学等の鉄道利用の促進と利便性の向上を図るため、鉄道事業者等に協力を求め、駅の維持や整備による交通結節機能の強化を図ります。
- ◆廃止されたくりこま田園鉄道の施設跡等は、有効活用を検討します。
- ◆歩道は、安全な歩行空間を確保するため、幹線道路への設置・改善に努めます。
- ◆チャチャワールドいしこし及び高森パークゴルフ場、海上連親水公園は、市民の憩いの場として既存施設の維持と活用を行い、憩いの場や健康増進活動の場などの機能の有効利用を図ります。
- ◆地域の観光施設・資源は、各施設等を有機的に結ぶネットワークの確立を図ります。これにより、本市全体の観光ネットワークの一翼を担う施設づくりを地域住民、商業・観光関係者等との連携によって進めます。
- ◆下水道の未整備地区では、公共下水道又は浄化槽の整備を進めます。

## ③都市環境

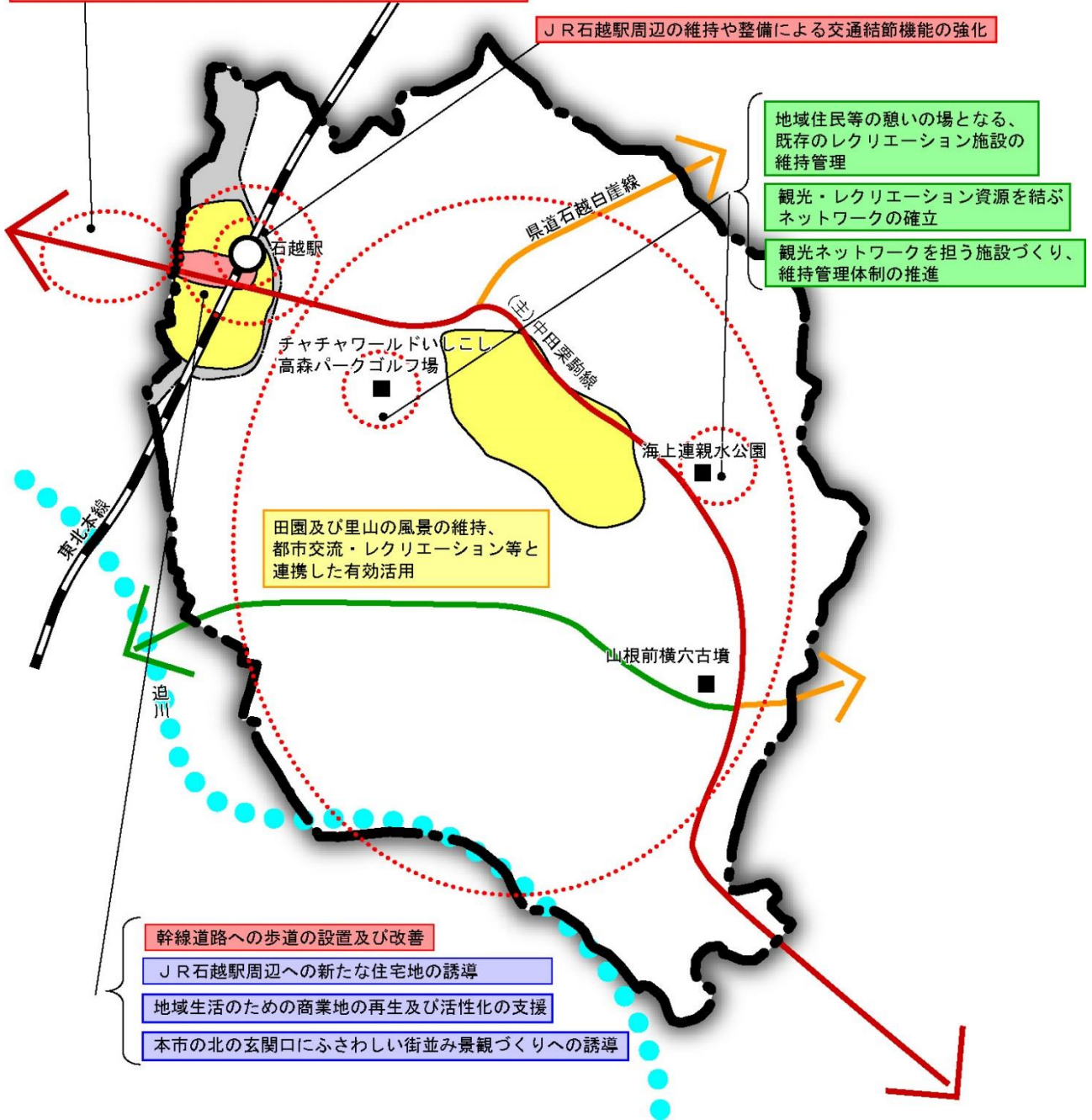
- ◆広大な田園地帯及び丘陵地は、本地域を象徴する田園景観の維持に努めるとともに、都市交流・レクリエーション等と連携した農業生産や有効活用等の方向を検討します。
- ◆J R石越駅周辺は、地域の生活と交流の拠点としてふさわしい街並み景観の形成に努めます。

(4) 石越地域の地域づくり方針図

- 【地域づくりの目標】
- ①生活・交流を支える安全、安心、利便性の高い交通機能の確保を目指します
  - ②石越駅周辺の再生と暮らしやすい生活空間づくりを目指します
  - ③観光・交流施設のネットワーク化と地域の交流促進を目指します
  - ④田園環境の保全と活用による地域づくりを目指します



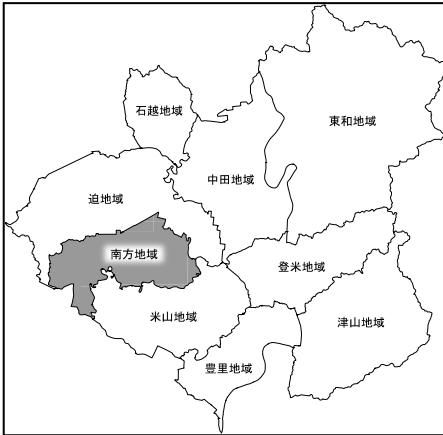
市内の各地域や東北新幹線くりこま高原駅など栗原市の主要な施設へアクセスする公共交通ネットワークの再構築



## 5-2-8. 南方地域

### (1) 人口・世帯等の動向

#### ■ 地域の位置

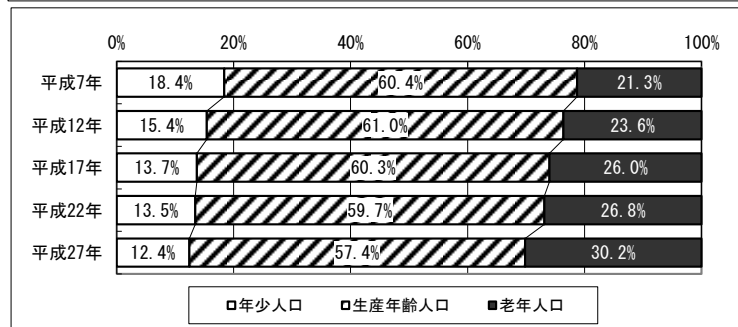
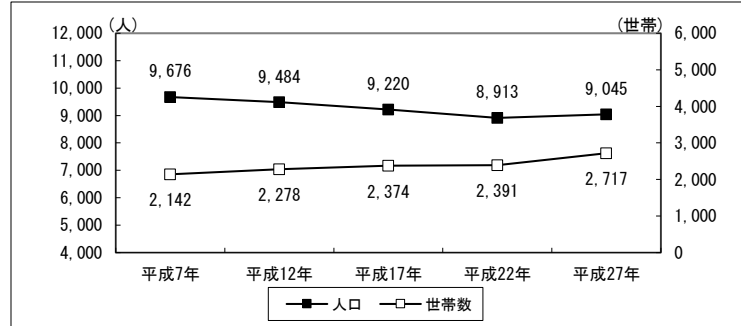


#### ■ 地域の人口と世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0～14歳	構成比	15～64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	1,779	18.4%	5,840	60.4%	2,057	21.3%	9,676	2,142
平成12年	1,460	15.4%	5,786	61.0%	2,238	23.6%	9,484	2,278
平成17年	1,266	13.7%	5,559	60.3%	2,395	26.0%	9,220	2,374
平成22年	1,200	13.5%	5,320	59.7%	2,393	26.8%	8,913	2,391
平成27年	1,123	12.4%	5,193	57.4%	2,729	30.2%	9,045	2,717

※「不詳」を除く

資料：国勢調査



#### ■ 人口・世帯等の動向

- 人口は減少傾向から微増を示し、世帯数は増加傾向にあります。
- 高齢化率は30.2%であり、市全体での平均値を下回っています。

#### ■ 都市計画区域の指定状況

- 本地域の北側の一部に迫地域と連続した商業業務地において地域面積の約7%が登米都市計画区域に指定されています。

#### ■ 現況・課題

##### ① 土地利用

- 迫地域の中心市街地に隣接する地域であり、県道などの幹線道路沿道に幹線道路沿道型商業施設や郊外型店舗の進出が見られます。迫地域の中心市街地と連続した市街地が形成されている地区や(主)古川佐沼線沿いは、幹線道路沿道土地利用等の土地利用方針に基づき、計画的な開発誘導を図るとともに、周辺環境に配慮した市街地景観の形成を進めていく必要があります。
- 主要な集落は高石地区に形成されています。既存の商店街の再生や安全な歩道空間への改善など、地区の再構築に取り組む必要があります。
- 大型ショッピングセンター周辺の都市施設の整備や土地利用の規制・誘導を行っていく必要があります。

##### ② 都市施設

- (主)古川佐沼線、県道新田米山線の幹線道路が高石地区を通り、地域の骨格を形成しています。



高石地区への安全な歩行空間の確保や大型ショッピングセンター周辺の交通渋滞を緩和していく必要があります。

- (主)古川佐沼線沿いには、道の駅「みなみかた」が整備されています。観光資源としては、花菖蒲の郷公園、大嶽山興福寺六角堂、マガン等が飛来する蕪栗沼・周辺水田などを有しています。

### ③都市環境

- 地形は、北西側は丘陵地、東側から西側までは平坦な田園地帯が広がっています。地域の大半の土地利用を占める広大な優良農地の田園環境を保全していく必要があります。

## (2) 地域づくりのテーマと目標

### ●地域のキーワード

- ・本市の中心市街地と連続した市街地
- ・幹線道路沿道地区への商業施設の進出
- ・大型ショッピングセンター
- ・大嶽山、蕪栗沼・周辺水田、花菖蒲の郷
- ・広大な田園環境
- ・基幹産業の農業
- ・道の駅「みなみかた」

### 【南方地域の地域づくりのテーマ】

#### 農と住と物流・販売が協調し、産業の拡大を図るまちづくり

《農と住と物流・販売(基幹産業としての農業・道の駅)、産業の拡大(農業の拡大等による地域活性化促進)》

### 【地域づくりの目標】

#### 《目標①》中心市街地と連続した市街地の形成を目指します。

- 商業施設・交流機能の集積による広域商業核の形成
- 内環状道路の内側及び沿道への商業系または住居系土地利用の適切な誘導
- 内環状道路沿道より外側への無秩序な市街地拡大の抑制、田園地帯の環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化

#### 《目標②》田園環境、農畜産物を活かした地域の産業の拡大を目指します。

- 田園及び里山の景観の維持、都市交流・レクリエーション等と連携した有効活用
- 農業環境の維持、農畜産物を活かした産業の拡大等による地域活性化促進

#### 《目標③》地域生活のための機能集約型の拠点づくりと生活環境の向上を目指します。

- 郊外型商業地と既存商店街との機能分担の明確化
- 高石地区への都市機能、公園・緑地などの適切な配置による快適な地域生活の拠点形成
- 幹線道路の歩行者の安全・安心と円滑な交通処理の確保

#### 《目標④》地域の資源を活かした観光・交流型の地域づくりを目指します。

- 道の駅「みなみかた」の地域情報を発信する機能の維持と拡充
- 自然、文化資源の観光・レクリエーション、交流空間としての有効活用

### (3) 地域の整備・保全の方針

#### ①土地利用

- ◆内環状道路沿道及び(主)古川佐沼線の沿道、迫地域との境界付近には大型ショッピングセンターなどの広域的に集客のある商業施設・交流機能の集積を図り、広域商業核を形成していきます。
- ◆内環状道路の内側及び沿道は、迫地域の中心市街地と連続する地区であり、中心市街地と一体となった沿道型商業業務系または住居系の適切な土地利用の誘導を図ります。
- ◆内環状道路沿道より外側の地域は、無秩序な市街地の拡大を抑制し、農地や自然環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化を図ります。
- ◆高石地区は、本地域の生活の中心地として位置づけ、地域生活に必要な都市機能、公園・緑地などを適切に配置し、地区の規模に見合った機能集約を図った地域生活の中心づくりの誘導を図ります。
- ◆高石地区の商店街は、迫地域の中心市街地隣接地区に形成されつつある郊外型商業地との機能分担を明確にし、地区の役割に見合った商店街の再編の適切な誘導を図ります。また、地区内の空き家、空き店舗の再利用や周辺の防犯・防災などの環境整備についても、地域住民等と対策を講じます。

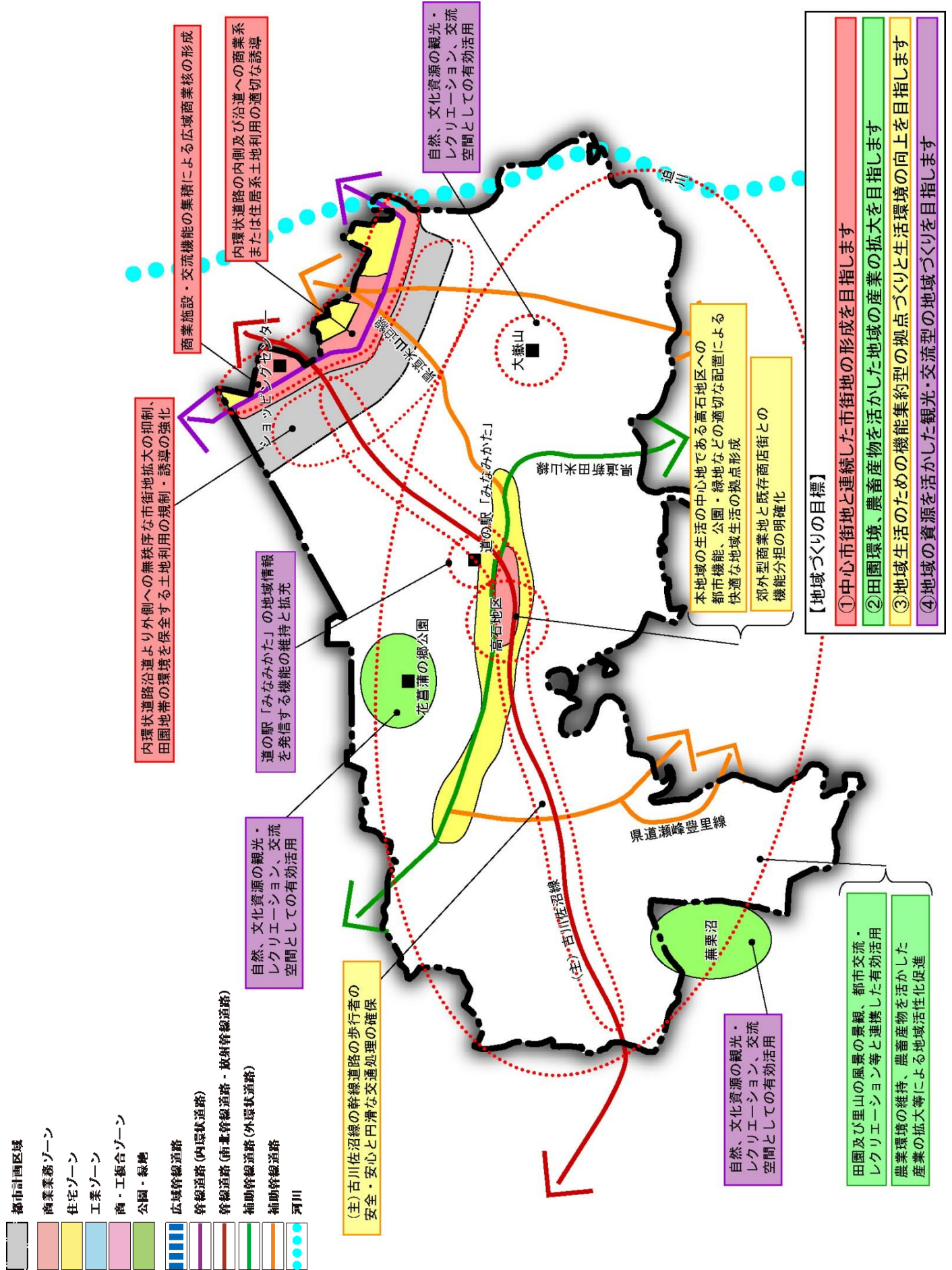
#### ②都市施設

- ◆中心市街地内の交通を円滑処理するため、内環状道路の整備を早期に進めます。
- ◆高石地区の中心部を通る(主)古川佐沼線は、歩道の設置・改善や右折レーンの設置などを関係機関に要望し、歩行者の安全・安心と円滑な交通処理を確保します。
- ◆下水道の未整備地区では、公共下水道又は浄化槽の整備を進めます。
- ◆道の駅「みなみかた」は、地域の自然・田園環境、歴史文化や農畜産品等の地域情報を発信する拠点として、現在の機能の維持と拡充を図ります。
- ◆大嶽山(興福寺、六角堂)、蕪栗沼・周辺水田、花菖蒲の郷は、地域の歴史文化や自然環境を活用した、観光・レクリエーション、交流空間として周辺環境に配慮しつつ、有効活用を図ります。

#### ③都市環境

- ◆広大な田園地帯は、本地域を象徴する田園景観の維持に努めるとともに、都市交流・レクリエーション等と連携した農業生産や有効活用等を検討します。
- ◆本地域の基幹産業である農畜産業は、米や野菜、畜産物の付加価値化、ブランド化による販路の拡大等によって産業の拡大を地域住民、商業・農業関係者等との連携を図りながら進めます。
- ◆迫地域の中心市街地と連続する地区は、地区にふさわしい市街地景観の形成に努めます。

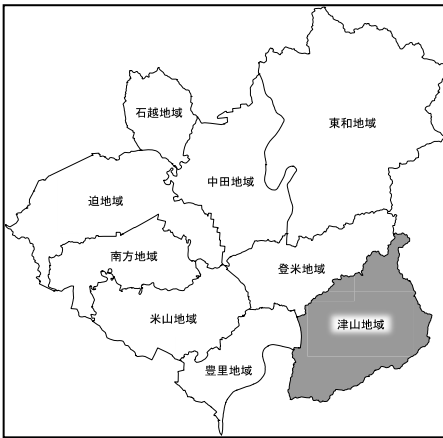
(4) 南方地域の地域づくり方針図



## 5-2-9. 津山地域

### (1) 人口・世帯等の動向

#### ■ 地域の位置

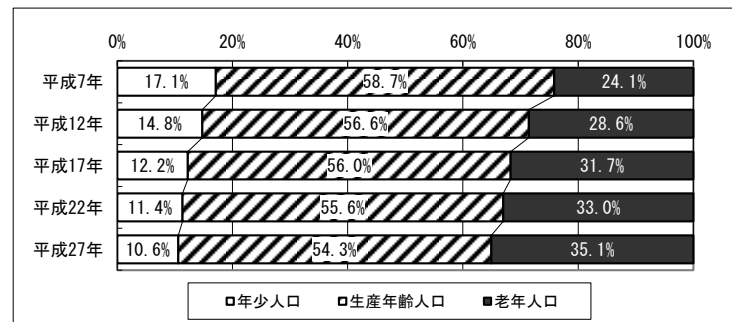
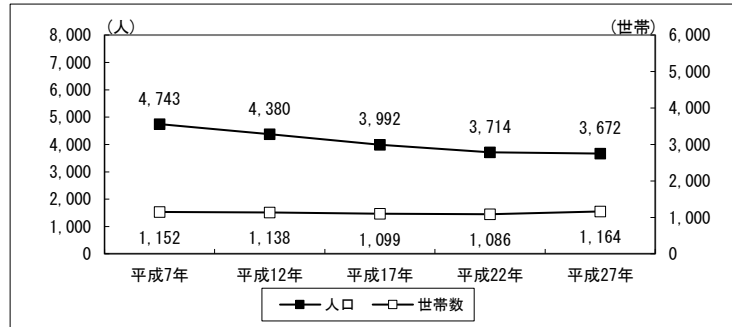


#### ■ 地域の人口と世帯数の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		人口計	世帯数
	0~14歳	構成比	15~64歳	構成比	65歳以上	構成比		
平成7年	812	17.1%	2,786	58.7%	1,145	24.1%	4,743	1,152
平成12年	648	14.8%	2,481	56.6%	1,251	28.6%	4,380	1,138
平成17年	489	12.2%	2,237	56.0%	1,266	31.7%	3,992	1,099
平成22年	422	11.4%	2,066	55.6%	1,226	33.0%	3,714	1,086
平成27年	389	10.6%	1,995	54.3%	1,288	35.1%	3,672	1,164

※「不詳」を除く

資料：国勢調査



#### ■ 人口・世帯等の動向

- 地域の人口は減少傾向、世帯数は減少傾向から平成27年（2015年）に増加しています。
- 高齢化率は、市内で3番目に高い35.1%であり、高齢化の進行が著しい状況です。

#### ■ 都市計画区域の指定状況

- 本地域の西側の柳津地区において、地域面積の約9%が登米都市計画区域に指定されています。

#### ■ 現況・課題

##### ① 土地利用

- 本地域は、柳津地区、横山地区の2つの主要な集落が形成されています。柳津地区、横山地区は、生活環境の改善・向上や街並みの景観形成を進めていく必要があります。
- 国道45号沿いには津山中央工業団地が整備されています。人口流出を防ぐため、地域における雇用の場を拡大していく必要があります。

##### ② 都市施設

- 幹線道路は、国道45号、342号が通っており、幹線道路網の骨格を形成しています。また、三陸縦貫自動車道桃生津山I.C（石巻市）が近隣に整備されています。
- 地域の中央にはJR気仙沼線（BRT）が通っており、柳津駅、陸前横山駅の2駅があります。
- 地域の一部は三陸復興国立公園に指定されています。道の駅「津山」は、市民の交流の場として利用されています。また、地域資源である木材をテーマとした「もくもくランド」が道の駅内に

併設されています。

○歴史文化資源は、国の有形文化財に木造不動明王坐像などが指定され、また、柳津虚空蔵尊、横山不動尊などの歴史文化資源が分布しています。地域内の歴史・文化、森林や木材、北上川の水辺等の固有の資源は、その保全と有効活用した地域の活性化、観光振興の拡大に資するまちづくりを促進する必要があります。

### ③都市環境

○起伏のある山間地に位置し、地域の大半が森林地帯となっています。また、地域の西側には北上川が流れています。森林地帯や北上川の水辺等の豊かな自然環境は、保全を図るとともに未来へ継承していく取り組みを行う必要があります。

## (2) 地域づくりのテーマと目標

### ●地域のキーワード

- ・森林地帯、自然環境
- ・木材、木工細工
- ・北上川
- ・柳津虚空蔵尊、横山不動尊
- ・三陸復興国立公園
- ・J R柳津駅と陸前横山駅
- ・三陸縦貫自動車道桃生津山 I.C
- ・道の駅「津山」

### 【津山地域の地域づくりのテーマ】

### 水と木の文化、歴史を継承する、文化交流のまちづくり

《水と木の文化、歴史(北上川・木材・木工細工・道の駅)、文化交流(柳津虚空蔵尊・横山不動尊等の歴史文化資源の保全)》

### 【地域づくりの目標】

#### 《目標①》自然環境に囲まれた生活空間づくりを目指します。

- 柳津地区の都市機能、公園・緑地等の適切な配置と機能集約を図った地域の生活の中心地づくり
- 自然環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化
- 集落地の生活の安全を確保するための自然災害の防止対策
- 横山地区の国道 45 号の拡幅と歩道の整備・改善

#### 《目標②》豊かな自然環境の保全と木の文化の継承と有効活用による地域の活性化を目指します。

- 道の駅「津山」の木の文化を発信する機能の維持と拡充
- 木材のブランド化や観光用の製品開発などによる地域活性化促進への活用
- 平地部から山並みを望む眺望景観の確保

#### 《目標③》地域の歴史文化資源を活かした観光交流ネットワークの確立を目指します。

- 地域の観光施設・資源や三陸復興国立公園の自然環境を有機的に結ぶ観光・交流・レクリエーションのネットワークの確立
- 柳津虚空蔵尊、横山不動尊等の歴史文化資源の保全と集客施設としての強化・充実

#### 《目標④》北上川の水や I.C の設置の効果を活かした地域の活性化を目指します。

- 北上川沿いへの集客施設の整備と水辺に親しめる水辺軸の形成
- 北上川の水の文化を感じることでできる街並み景観づくりへの誘導
- 三陸縦貫自動車道桃生津山 I.C の設置効果を受けた津山中央工業団地の有効活用

### (3) 地域の整備・保全の方針

#### ①土地利用

- ◆柳津地区は、本地域の主要な居住地区と位置づけ、地域生活に必要な都市機能、公園・緑地などを適切に配置し、地区の規模に見合った機能集約を図った地域生活の中心づくりの誘導を図ります。
- ◆森林地帯は、現状のまま保全していくことを基本とします。農地や森林等の自然・緑の環境を保全する土地利用の規制・誘導の強化に努めます。
- ◆地区内の農地を保全するとともに、耕作放棄地の有効活用や産直の充実、地域農業の振興を図ります。
- ◆津山中央工業団地は、三陸縦貫自動車道桃生津山 I.C の設置効果を活かし、地域の雇用の場となるよう工業団地の有効活用を図ります。

#### ②都市施設

- ◆主要な集落である横山地区においては、地区内を通る幹線道路である国道 45 号の拡幅、歩道設置、改善を関係機関に要望します。
- ◆北上川の河川沿いは、水辺に親しめる軸の形成を進めます。
- ◆下水道の未整備地区では、公共下水道又は浄化槽の整備を進めます。
- ◆柳津虚空蔵尊、横山不動尊等の地域内に分布する歴史文化資源は、集客施設としての有効活用とその資源保全の強化・充実を図ります。
- ◆道の駅津山は、木の文化の情報を発信する拠点として、現在の機能の維持と拡充を図るとともに、周辺には森林浴や林業体験など森林環境との交流の空間を自然環境に配慮しつつ、形成することを検討していきます。
- ◆地域の観光施設・資源や三陸復興国立公園の自然環境は、各施設等を有機的に結ぶネットワークの確立を図ります。これにより、本市全体の観光ネットワークの一翼を担う森林地帯、国立公園の観光・交流・レクリエーションの地域づくりを地域住民、商業・観光関係者等との連携によって進めます。また、これらの観光資源の情報発信に努めます。

#### ③都市環境

- ◆柳津地区は、鉄道（BRTを含む）と国道 45 号、342 号が通り、さらに三陸縦貫自動車道桃生津山 I.C からのアクセスなどの広域交通が集中しており、本市の南東端に位置する玄関口にふさわしい地域の中心地の景観形成、さらに北上川の水の文化を感じることでできる街並みの誘導を図ります。
- ◆森林地帯は、現況の自然環境を維持することにより、平地部から森林を望む眺望景観の確保に努めます。
- ◆森林地帯の地域資源である木材は、先人より受け継がれてきた貴重な木の文化として継承していくとともに、製品の地域ブランド化や観光用の製品開発などによって、地域の活性化促進への活用を検討します。
- ◆山間部に位置する集落地は、自然災害の防止対策を検討し生活の安全を確保に努めます。

#### (4) 津山地域の地域づくり方針図

- 【地域づくりの目標】
- ① 自然環境に囲まれた生活空間づくりを目指します
  - ② 豊かな自然環境の保全と木の文化の継承と有効活用による地域の活性化を目指します
  - ③ 地域の歴史文化資源を活かした観光交流ネットワークの確立を目指します
  - ④ 北上川の水やI.C.の設置効果を活かした地域の活性化を目指します

